動作環境（本機）

- パソコン
  以下のOSを標準インストールしたIBM PC/AT互換機専用です（日本語版標準インストールのみ）。
  Microsoft Windows Vista Home Basic またはHome Premium またはBusiness またはUltimate /
  Windows XP Home Edition またはProfessional またはMedia Center Edition 2004 & 2005 SP2以降
  64ビット版およびマイクロソフト社サポート対象外のOSでは動作保証いたしません。
- CPU：Pentium 4 1.0 GHz相当以上
- メモリ：512 MB以上
- ハードディスクドライブ：450 MB以上（1.5 GB以上を推奨）の空き容量
  Windows のバージョンによってはそれ以上使用する場合があります。また、音楽やビデオ、写真のデータを扱うための空き容量がさらに必要です。
- ディスプレイ：800 x 600 ピクセル以上（1024 x 768 ピクセル以上を推奨）、High Color（16 ビット）以上（256以下では正しく動作しない場合があります）
- CD-ROMドライブ：WDMによるデジタル再生機能に対応しているドライブが必要です。
  さらに音楽CD/ATRAC CD/MP3 CDの作成を行うためには、CD-R/RWドライブが必要です。
- サウンドボード
- USBポート（Hi-Speed USB推奨）
- Microsoft.NET Framework 2.0または3.0、QuickTime 7.2、Internet Explorer 6.0または7.0がインストールされている必要があります。
- CDDBやインターネット音楽配信サービス（EMD）を利用する場合や、SonicStageでバックアップしたデータを復元する場合は、インターネットへの接続環境が必要です。
- 上記の環境を満たすすべてのパソコンでの動作を保証するものではありません。
  また、以下のシステム環境での動作保証はいたしません。
  自作パソコン/標準インストールされているOSから他のOSへのアップグレード環境/マルチブート環境/マルチモニタ環境/Macintosh
- 本機を自作パソコンに接続し、数秒以内に本機画面が点灯しない場合は、本機をすぐに取り外してパソコンのUSB電源配線に間違いがないかご確認ください。そのまま使い続けると、本機が過熱し故障します。

* 3 2 8 9 8 1 0 0 1 * (3)

3-289-810-**01** (3)

取扱説明書

NW-A828 / A829

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この「取扱説明書」と「詳細操作ガイド（PDF）」、別冊の「安全のために」には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。よくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

マニュアルについて

本機の操作は、「取扱説明書」のほかに、「詳細操作ガイド（PDF）」（付属のCD-ROMに収録）と、SonicStageやMedia Manager for WALKMANのヘルプ（各ソフトウェアの[ヘルプ]メニューから参照）などで説明しています。

- **取扱説明書**：準備から再生までの基本的な操作の説明と困ったときの対処方法の説明
- **詳細操作ガイド（PDF）**：各機能の使いかたや設定方法などの応用操作、困ったときの対処方法の説明
- **SonicStageのヘルプ**：本機で音楽を楽しむために使うSonicStageの操作についての説明
- **Media Manager for WALKMANのヘルプ**：本機でビデオや写真を楽しむために使うMedia Manager for WALKMANの操作についての説明
- **安全のために**：事故を防ぐための重要な注意事項の説明

詳細操作ガイド（PDF）を見るには

- ☞15ページの手順に従ってインストール後、Windowsのスタートメニューから[スタート]－[すべてのプログラム]－[SonicStage]－[NW-A820シリーズ詳細操作ガイド]の順にクリックします。
- Adobe Acrobat Reader 5.0以降、またはAdobe Readerが必要です。Adobe Readerはインターネットから無償でダウンロードできます。

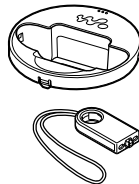
最新の情報を見るには

ウォークマン カスタマーサポートのホームページでは、ご質問やトラブルの解決方法、接続できる機器の互換性情報、本機またはSonicStageについての最新情報を掲載しています。
http://www.sony.co.jp/walkman-support/

付属品を確かめる

箱から出したら、付属品がそろっているか確認してください。

- □ ヘッドホン（1）
- □ イヤーピース（Sサイズ、Lサイズ）（各サイズ2個1組）
- □ USBケーブル（1）
- □ アタッチメント（1）
  本機を別売りのクレードルなどに取り付けるときに使います。

- □ スタンドチップ（1）
- □ CD-ROM*[1]（1）
  - SonicStageソフトウェア
  - Media Manager for WALKMANソフトウェア
  - WALKMAN Launcherソフトウェア
  - 詳細操作ガイド（PDF）
- □ 取扱説明書（本書）（1）
- □ 安全のために（1）
- □ 保証書（1）
- □ ソニーご相談窓口のご案内（1）
- □ カスタマー登録のお願い（1）

*[1] 音楽CDプレーヤーでは再生しないでください。

イヤーピースの正しい装着方法

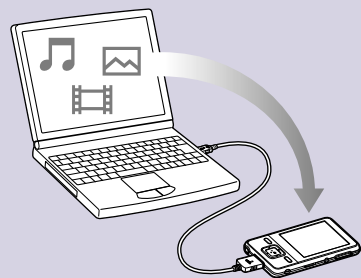
イヤーピースが耳にフィットしていないと、低音が聞こえなかったり、ノイズキャンセリング機能（☞ 11ページ）の効果が得られなかったりします。より良い音質を楽しんでいただくためには、イヤーピースのサイズを交換したり、おさまりの良い位置に調整するなど、ぴったり耳に装着させるようにしてください。
お買い上げ時には、Mサイズが装着されています。サイズが耳に合わないと感じたときは、付属のLサイズやSサイズに交換してください。イヤーピースがはずれて耳に残らないよう、イヤーピースを交換する際には、ヘッドホンにしっかり取り付けてください。取り付けを確実にするためにイヤーピースを回転してください。

目次

はじめに

NW-A828/A829をお買い上げいただきありがとうございます。
本機には、次のような機能があります。

パソコンから転送して、音楽、ビデオ、写真を楽しむ

本機で音楽やビデオ、写真を楽しむには、付属のソフトウェア（SonicStage、Media Manager for WALKMAN）を使って本機にデータを転送します。転送後は、いろいろな場所で楽しめます。
ソフトウェアは必ず付属のCD-ROMからパソコンにインストールしてください。

音楽

取り込む（☞18ページ）
転送する（☞20ページ）
再生する（☞22ページ）

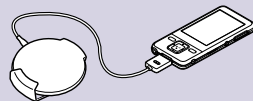
ビデオ・写真

転送する（☞28ページ）
再生する（☞34ページ）

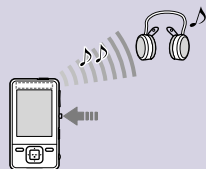
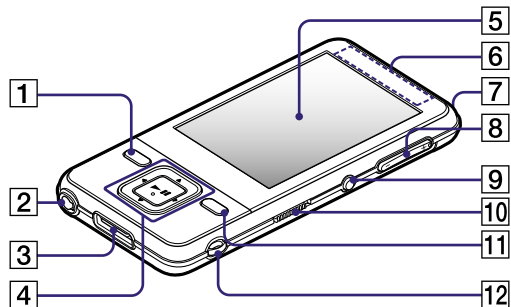
パソコンを使わずに録音[*1]する

本機は、パソコンを使わずに、オーディオ機器（CDプレーヤーなどLINE OUTなどのオーディオ出力端子がある機器）から直接、録音することができます。

[*1] 本機での録音に対応した、別売りのクレードル(BCR-NWU5)または録音用ケーブル(WMC-NWR1)などが必要です。

録音する（☞38ページ）
録音した曲を再生する（☞42ページ）
録音した曲を削除する（☞43ページ）

Bluetooth通信で音楽を聞く

Bluetooth通信を使って、接続先のBluetooth機器で音楽やビデオの音声を再生することができます。
本機のBLUETOOTHボタン使って簡単にBluetooth接続を行うことができます。（クイック接続）

ペアリングをする（☞48ページ）
Bluetooth接続を行う（☞52ページ）
Bluetooth機器で音楽やビデオの音声を聞く（☞52ページ）

本体表面

1 BACK/HOMEボタン*[1]

リスト画面の階層を上がったり、前の画面に戻ります。押したままにすると、ホームメニューが表示されます（☞ 12ページ）。

2 ヘッドホンジャック

ヘッドホンを接続します。「カチッ」と音がするまで差し込みます。

3 WM-PORTジャック

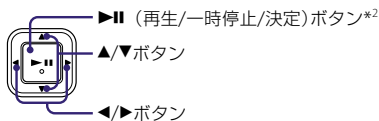
付属のUSBケーブルや、別売りのWM-PORT対応のアクセサリーを接続できます。本機での録音に対応した別売りアクセサリーも接続できます。

4 5方向ボタン

▶IIボタンを押して再生を始めます。また、▲/▼/◀/▶ボタンで選択項目を選び、▶IIボタンを押して項目を決定できます。

▶II （再生/一時停止/決定）ボタン*[2]

▲/▼ボタン

◀/▶ボタン

5 画面

6 内蔵アンテナ

Bluetooth通信中は手などでおおわないようにしてください。

7 Bluetoothランプ

Bluetooth通信の状態を表示します。

8 VOL +*[2]/−ボタン

9 BLUETOOTHボタン

押したままにして、Bluetooth機能を有効／無効、およびBluetooth通信を接続／切断します。

10 HOLDスイッチ

HOLDスイッチを矢印の方向▶にスライドすると、操作ボタンが働かなくなります。

11 OPTION/PWR OFFボタン*[1]

オプションメニューを表示します。

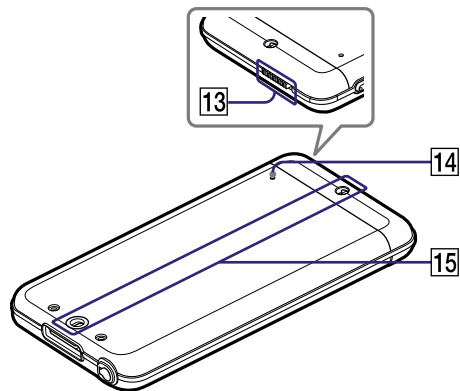
押したままにすると画面表示が消え再生待機状態になります。そのまま最長で1日経過すると、自動的に電源が切れます（☞ 14ページ）。

12 ストラップ取り付け口

ストラップ（別売り）を取り付けます。また、スタンドチップ（付属）をストラップと同時に取り付けることもできます。

*[1] 本機上の ⬬ はボタンを押したままにすると使える機能です。

*[2] 凸点（突起）がついています。操作の目安としてお使いください。

本体裏面

13 NOISE CANCELING（ノイズ キャンセリング） スイッチ

NOISE CANCELINGスイッチを矢印の方向►にスライドすると、ノイズキャンセリング機能が有効になります（☞ 11ページ）。

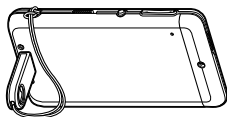
14 RESET（リセット）ボタン

クリップなどの細い棒でRESETボタンを押すと、本機をリセットできます（☞ 58ページ）。

15 アクセサリー取り付け部

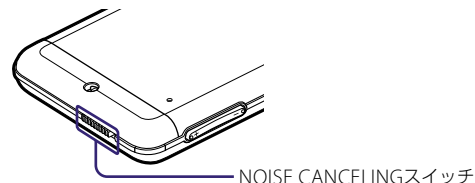
スタンドチップ（付属）やアクセサリー取り付け部（タイプⅠ）に対応したアクセサリー（別売り）を取り付けます。

本機を立てて使うとき

付属のスタンドチップを使って以下のように立てて使うことができます。

ご注意

- スタンドチップを挿した状態で無理な力をかけないでください。
- スタンドチップを使うときは、本機を縦方向に立てて使わないでください。

ノイズキャンセリング機能を使う

本機のNOISE CANCELINGスイッチをオンにすると、周囲の騒音を低減することができます。付属のヘッドホンを使っているときにのみノイズキャンセリング機能が働きます。

1 **NOISE CANCELINGスイッチを矢印の方向►にスライドしてオンにする。**

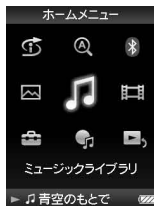
再生画面では画面の右下に NC が表示されます。

ご注意

- 付属のヘッドホン以外を使っているときにはNOISE CANCELINGスイッチをオンにしても、ノイズキャンセリング機能は働きません。その場合、画面の右下には NC が表示されます。
- Bluetooth接続での再生音にはノイズキャンセリング機能は働きません。

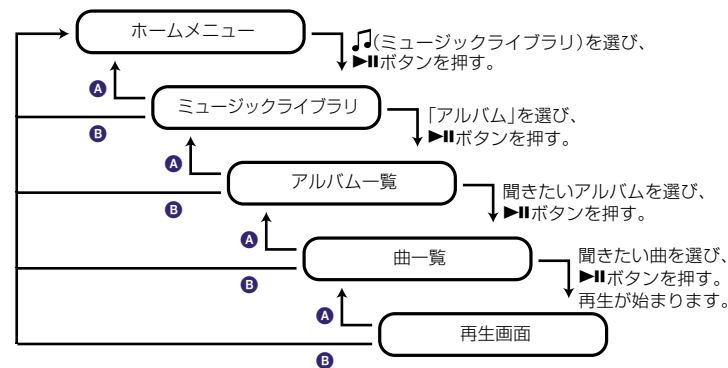
次のページへつづく☞

ホームメニューの機能

本機のBACK/HOMEボタンを押したままにすると、ホームメニューが表示されます。ホームメニューは、本機の各機能の入り口になり、曲の検索や設定変更などができます。

インテリジェントシャッフル	本機に転送した曲をシャッフル再生します。
イニシャルサーチ	頭文字で曲やアーティストなどを検索します。
Bluetooth	ペアリング、Bluetooth接続を行います。（☞ 48ページ）
フォトライブラリ	本機に転送した写真を表示します。（☞ 34ページ）
ミュージックライブラリ	本機に転送した曲を再生します。（☞ 22ページ）
ビデオライブラリ	本機に転送したビデオを再生します。（☞ 34ページ）
各種設定	各機能の設定や、本機の設定を行います。
録音	曲を録音したり、録音した曲を再生します。（☞ 38ページ）
再生画面へ	再生画面を表示します。

各機能の使いかたや設定方法、本機の応用操作について詳しくは、「詳細操作ガイド（PDF）」をご覧ください。

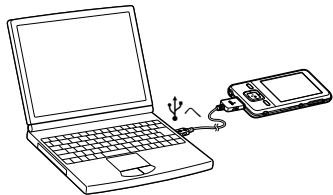
操作ボタンの使いかた

本機のメニューは、5方向ボタンとBACK/HOMEボタンで操作します。
▲/▼/◀/▶ボタンで項目を選び、▶IIボタンを押して決定します。BACK/HOMEボタンを押すと1階層上の画面に戻り、押したままにするとホームメニューへ戻ります。
例えば、ホームメニューから「ミュージックライブラリ」－「アルバム」の順で曲を選ぶと、以下のように画面が切り換わります。

Ⓐ BACK/HOMEボタンを押す。
Ⓑ BACK/HOMEボタンを押したままにする。

ヒント

- OPTION/PWR OFF ボタンを押すと、オプションメニューから設定変更などができます。オプションメニューの各項目については、「詳細操作ガイド（PDF）」をご覧ください。

充電する

本機を起動しているパソコンと接続して FULL になるまで充電してください。
初めてお使いになる場合や、しばらくお使いにならなかった場合は、 FULL が表示されるまで充電してください。電池を使い切った状態から約3時間で充電が完了します。
また、別売りのACアダプター（AC-NWUM50など）を使って充電することもできます。

ご注意

- 電源を接続していないノートパソコンと本機を接続した場合、ノートパソコンのバッテリーが消耗します。本機を接続したまま長時間放置しないでください。

電源を入れる／切る

パソコン接続中は本機を操作することはできません。USBケーブルをはずしてから操作してください。

電源を入れる

いずれかのボタンを押すと本機の電源が入ります。

電源を切る

OPTION/PWR OFFボタン（☞ 9ページ）を押したままにすると、画面表示が消え再生待機状態になります。このときいずれかのボタンを押すと、元の状態に戻り再生画面が表示されます。
再生待機状態のまま最長で1日経過すると、自動的に電源が切れます。
このときいずれかのボタンを押すと、起動画面のあとに再生画面などが表示されます。

ヒント

- 本機をお使いになる前に、本機の時刻を合わせてください（☞ 44ページ）。

ソフトウェアをインストールする

本機で音楽を楽しむにはSonicStage、ビデオや写真を楽しむにはMedia Manager for WALKMANを使います。
次の手順に従って、2つのソフトウェアと本機の「詳細操作ガイド（PDF）」をインストールします。すでにSonicStageがインストールされている場合は、今まで使っていた機能とデータが引き継がれ、上書きでインストールされます。念のため、インストールの前にSonicStageでバックアップをとっておくことをおすすめします。

1 パソコンの電源を入れ、Windowsを起動する。
インストール時には、Administrator権限、またはコンピュータの管理者でログオンしてください。

2 起動中のソフトウェアを終了する。
インストール中の負荷が大きくなったり、正しくインストールできない恐れがあるため、ウィルスチェックソフトを含め、すべての起動中のソフトウェアを終了してください。

3 パソコンのドライブに付属のCD-ROMを入れる。
インストーラーが自動的に起動し、メインメニューが表示されます。

4 ソフトウェアと詳細操作ガイド（PDF）をインストールする。
メインメニュー画面から［ソフトウェアをインストールする］をクリックし、インストールするソフトウェアを選びます。表示される画面に従って操作してください。
お使いの環境によっては、20 ～ 30分かかる場合があります。また、インストール後に再起動が必要な場合は、表示される画面に従ってパソコンを再起動してください。

「詳細操作ガイド（PDF）」のみをインストールするには
［ 詳細操作ガイド］をクリックし、画面の指示に従って操作します。

次のページへつづく☞

インストールできないときは

「ウォークマン カスタマーサポート」のホームページで調べてください。ソフトウェアの最新情報などについてもご確認いただけます。

http://www.sony.co.jp/walkman-support/

それでもインストールできないときは、巻末のソニーの相談窓口またはお買い上げ店へご相談ください。

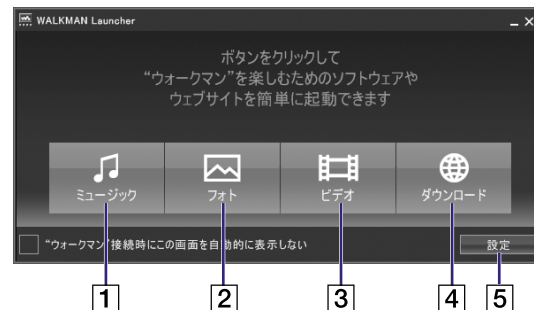
SonicStageをお使いになるときのご注意について

SonicStageのヘルプ「SonicStageをお使いになる前のご注意」をご覧ください。

ヒント

- ソフトウェアをインストールするとコンテンツにそったソフトウェアを起動するためのWALKMAN Launcherも一緒にインストールされます。WALKMAN Launcherについて詳しくは、17ページをご覧ください。

WALKMAN Launcherの使いかた

付属のCD-ROMを使ってソフトウェアをインストール後、本機をパソコンに接続すると、WALKMAN Launcherが起動します。使いたいソフトウェアを起動したり、インターネットに接続しておけば、ビデオダウンロードサービスのウェブサイトを表示できます。

1 SonicStageを起動します。曲の取り込み（☞18ページ）、転送（☞20ページ）を行います。

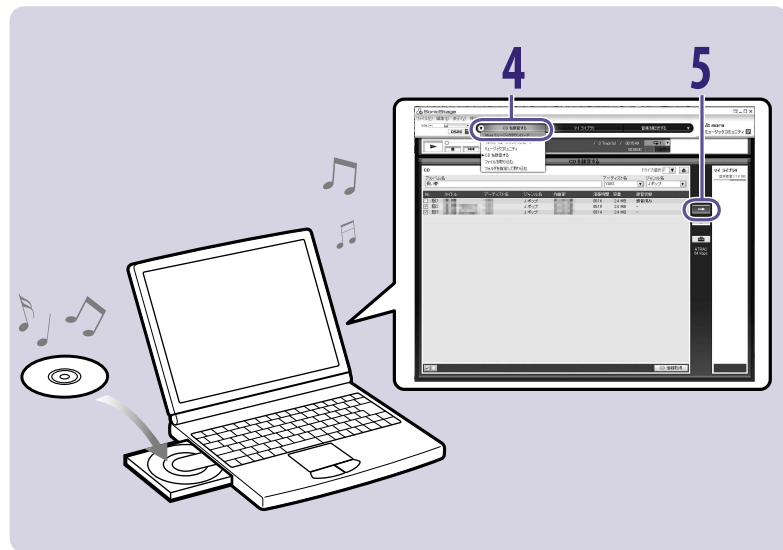
2 Media Manager for WALKMANを起動します。写真の転送（☞28ページ）を行います。

3 Media Manager for WALKMANを起動します。ビデオの転送（☞28ページ）を行います。

4 インターネットのビデオダウンロードサービスのウェブサイトを表示します。詳しくは、表示される画面に従って操作してください。

5 1、2、3で起動するソフトウェアを設定します。

詳しくは、SonicStageのヘルプをご覧ください。

SonicStageを使って、パソコンに曲を取り込みます。ここでは、音楽CDの曲を取り込む方法を説明します。

1 デスクトップの アイコンをダブルクリックしてWALKMAN Launcherを起動する。

2 WALKMAN Launcherの[ミュージック]をクリックする。

SonicStageが起動します。初めて起動したときは、初回設定画面が表示されます。表示される画面に従って操作してください。

[スタート]メニューから、直接SonicStageを起動することもできます。

3 音楽CDをパソコンのドライブに入れる。

インターネットに接続しておけば、CD情報（曲名やアーティスト名など）があれば自動で取得できます。

4 [音楽を取り込む]にポインタを合わせ、[CDを録音する]をクリックする。

CDを録音する画面が表示され、音楽CDの曲が一覧で表示されます。

5 をクリックする。

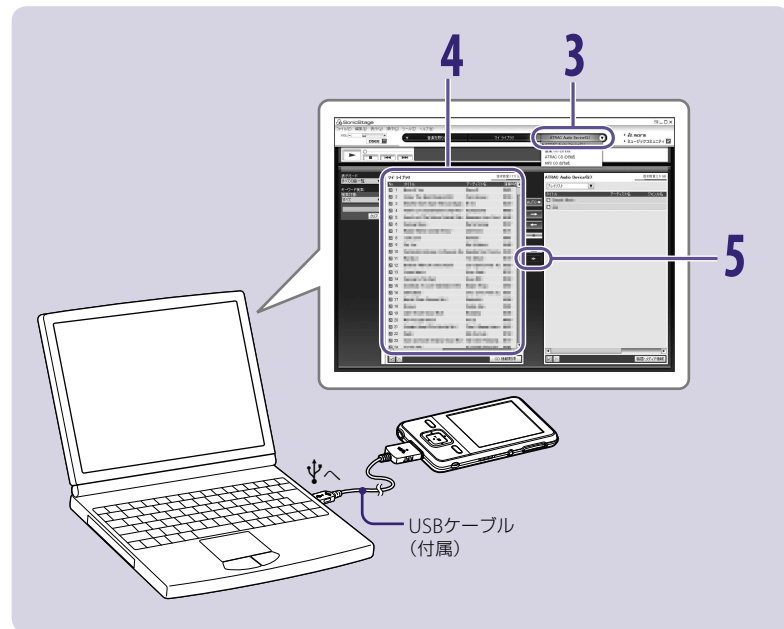
曲の取り込みが始まります。取り込みが終わると、曲単位で「録音済み」と表示されます。

ヒント

- SonicStageでは以下の操作もできます。
  - インターネット音楽配信サービスから取り込んだり、すでにパソコンに保存している曲（MP3、WMA*[1]、ATRAC、AAC*[1]など）を取り込む。
    - *[1] 本機では、著作権保護されたWMA/AACファイルは、再生できません。
  - 音楽CDから曲を選んで取り込む。
  - 音楽ファイル形式とビットレートを変更する。

ご注意

- SonicStageを使用中（CD録音中、曲の取り込み中、本機への転送処理中）にパソコンがスリープ／スタンバイ／休止状態へ移行すると、データが失われたり、SonicStageが正常に復帰しない場合がありますのでご注意ください。

本機をパソコンと接続し、SonicStageに取り込んだ曲を本機に転送します。
曲は、必ずSonicStageを使って本機に転送してください。Windowsのエクスプローラを使って転送した曲は、本機で再生できません。

1 **付属のUSBケーブルで本機とパソコンを接続する。**
USBケーブルのコネクタは、W. を上にして差し込みます。接続すると、WALKMAN Launcherが起動します。

2 **[ミュージック]をクリックする。**
SonicStageが起動します。[スタート]メニューから、直接SonicStageを起動することもできます。

3 **[音楽を転送する]にポインタを合わせ、[ATRAC Audio Device]を選ぶ。**

4 **転送する曲やアルバムを選ぶ。**

5 **→ をクリックする。**
転送が始まります。
転送が終わると、画面右側に転送した曲やアルバムが表示されます。
転送を途中で止めるには、■ をクリックします。

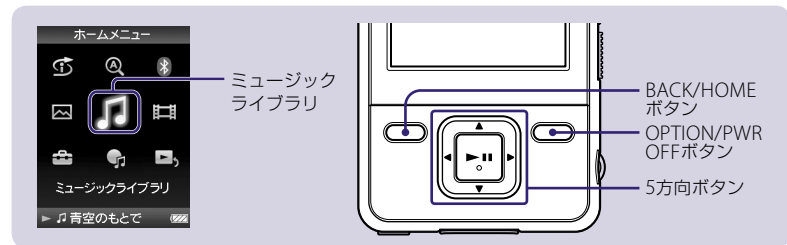
ヒント

- SonicStageで、ジャケット写真を登録すると、本機に音楽を転送したときに本機でジャケット写真が表示できます。ジャケット写真の登録方法については、SonicStageのヘルプをご覧ください。
- SonicStageでは、好きな曲をまとめたプレイリストを作成し、転送できます。SonicStageの表示モードでプレイリストを選んで表示し、転送してください。

ご注意

- 本機に「USB接続を解除しないでください。」と表示されているときはUSBケーブルをはずさないでください。転送中のデータが破損することがあります。
- 電源を接続していないノートパソコンと本機を接続した場合、ノートパソコンのバッテリーが消耗します。本機を接続したまま長時間放置しないでください。

♫ 音楽を再生する

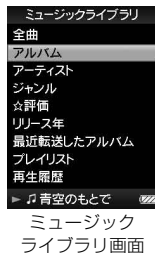
SonicStageから転送した曲は、本機のミュージックライブラリに保存され、曲名やアルバム名、アーティスト名、ジャンル名などから曲を探して再生できます。ここでは、アルバム名から曲を探して再生する方法を説明します。

1 パソコンとの接続をはずし、ホームメニューが表示されるまでBACK/HOMEボタンを押したままにする。

2 ▲/▼/◀/▶ボタンで ♫（ミュージックライブラリ）を選び、▶IIボタンを押して決定する。

ミュージックライブラリ画面が表示されます。

3 ▲/▼/◀/▶ボタンで「アルバム」を選び、▶IIボタンを押して決定する。

アルバム一覧が表示されます。

ミュージック
ライブラリ画面

4 ▲/▼/◀/▶ボタンでアルバムを選び、▶IIボタンを押して決定する。

選んだアルバムの曲一覧が表示されます。

5 ▲/▼/◀/▶ボタンで曲を選び、▶IIボタンを押して決定する。

再生画面が表示され、選んだ曲から順に再生します。

◀/▶ボタンを押すと、前の曲や再生中の曲、次の曲の頭出しをします。

押したままにすると、早戻しや早送りをします。

再生を一時停止するには、再生画面で▶IIボタンを押します。

一時停止後、約3分で画面表示が消え、再生待機状態になります。

再生画面

ヒント

- 本機では以下の操作もできます。詳しくは、「詳細操作ガイド（PDF）」の「音楽を聞く」や「音楽の設定をする」の章をご覧ください。
  - リピートやシャッフル再生をする。
  - 好きな曲をブックマークにまとめて再生する。
  - 音質を好みに合わせて調整する（☞25ページ）。
  - アルバム一覧の表示形式を変更する。

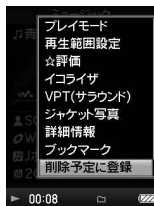
次のページへつづく☞

ミュージックライブラリ内の曲を削除する

転送した曲(ミュージックライブラリ内の曲)を削除するには、本機で削除予定リストに登録してからSonicStageに接続すると本機からまとめて削除できます。以下の手順は削除予定リストに登録する手順を説明しています。
録音した曲を削除するには、☞43ページをご覧ください。

1 **削除したい曲の再生画面を表示する(☞ 22ページ)。**

2 **OPTION/PWR OFFボタンを押す。**
オプションメニューが表示されます。

3 **▲/▼/◀/▶ボタンで「削除予定に登録」を選び、▶IIボタンを押して決定する。**
「削除予定リストに登録しました。」と表示され、登録が完了します。

ヒント

- 削除予定リストには100曲まで登録できます。
- 削除予定リストに登録された曲は、削除予定リスト以外の曲一覧では削除予定のアイコン 🗑 がついて表示され、再生できません。
- 次回SonicStageに接続したときに削除されるのは本機内からのみで、パソコンからは削除されません。
- 本機で削除予定リストに登録せずに、SonicStageで本機に転送した曲を削除することもできます。

好みの音質で再生する

曲を好みの音質に変えて再生することができます。

1 **ホームメニューが表示されるまで BACK/HOMEボタンを押したままにする。**

2 **▲/▼/◀/▶ボタンで🧰(各種設定)を選び、▶IIボタンを押して決定する。**

3 **▲/▼/◀/▶ボタンで「音楽設定」を選び、▶IIボタンを押して決定する。**
音楽設定項目一覧が表示されます。

4 **▲/▼/◀/▶ボタンで「イコライザ」、「VPT (サラウンド)」、「DSEE (高音域補完)」、「クリアステレオ」、「ダイナミックノーマライザ」の各設定項目を選び、▶IIボタンを押して決定する。**
各設定項目については☞26、27ページをご覧ください。

5 **▲/▼/◀/▶ボタンで各設定の設定値を選び、▶IIボタンを押して決定する。**
選んだ音質効果の設定値で曲を再生することができます。

ご注意

- ビデオまたは録音モニターの音声には音質の設定は反映されません。

音楽

次のページへつづく☞

イコライザ

音楽のジャンルに合わせて音を設定します。

設定項目	説明
オフ	イコライザ機能を無効にし、通常の音で再生します。（お買い上げ時の設定）
ヘビー（H）	低域と高域を強調した迫力のある音質になります。
ポップス（P）	中域を強調したヴォーカルなどに適した音質になります。
ジャズ（J）	メリハリのある低域と高域を強調した音質になります。
ユニーク（U）	小さな音でも比較的聞き取りやすいように低域と高域を強調した音質になります。
カスタム 1、2（1、2）	自分で設定した値になります。設定方法は「詳細操作ガイド（PDF）」をご覧ください。

VPT（サラウンド）

「スタジオ」、「ライブ」、「クラブ」、「アリーナ」では、音楽を再生する空間をヘッドホンで擬似的に再現します。豊かな音場感が得られる「マトリックス」やボーカルを減衰させる「カラオケ」のモードもあります。

設定項目	説明
オフ	VPT機能を無効にし、通常の音で再生します。（お買い上げ時の設定）
スタジオ	録音スタジオにいるような臨場感になります。
ライブ	ライブハウスにいるような臨場感になります。
クラブ	クラブにいるような臨場感になります。
アリーナ	アリーナ会場にいるような臨場感になります。
マトリックス	全方向から音が再現されるようなチューニングを加えたモードで、ナチュラルな再生音ながら豊かなサラウンド音場感が得られます。
カラオケ	センターボーカルを減衰させ、演奏音に対してサラウンド効果を持たせることで、ステージ上にいるような臨場感を得ることができます。

DSEE（高音域補完）

圧縮音源に対して高音質化処理を施し、さらに圧縮で取り除かれた高音域を補完することで、オリジナル音源に近い自然で広がりのある音を再現します。

設定項目	説明
オン	DSEE機能が有効になり、オリジナル音源に近い自然で広がりのある音で再生します。
オフ	DSEE機能を無効にし、通常の音で再生します。（お買い上げ時の設定）

クリアステレオ

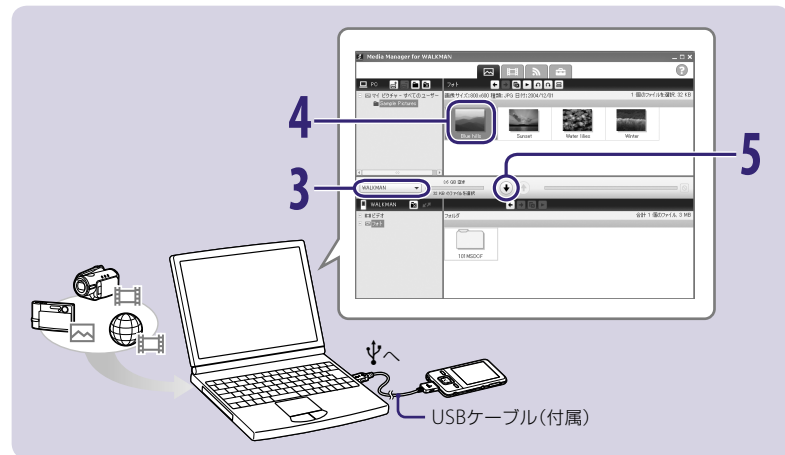
ヘッドホンの左右から出る音を、デジタル処理によりくっきりと区別して再生します。

設定項目	説明
オン	クリアステレオ機能の効果を得たい場合に選びます。
オフ	クリアステレオ機能を無効にし、通常の音で再生します。（お買い上げ時の設定）

ダイナミックノーマライザ

曲どうしの音量レベルの差が少なくなるように設定できます。この設定により、録音レベルの異なる複数のアルバムの曲をシャッフル再生するときでも、曲によって音量が大きすぎたり、小さすぎたりするのを避けられます。

設定項目	説明
オン	曲どうしの音量レベルの差が少なくなります。
オフ	曲を取り込んだときの音量レベルのまま再生します。（お買い上げ時の設定）

ビデオカメラなどで録画したビデオ、インターネットのサービスを利用してダウンロードしたビデオ、またデジタルスチルカメラなどで撮影した写真をパソコンに取り込み、付属のMedia Manager for WALKMANを使って本機に転送します。

1 **付属のUSBケーブルで本機とパソコンを接続する。**
USBケーブルのコネクタは、 を上にして差し込みます。
接続すると、WALKMAN Launcherが起動します。

2 **ビデオを転送する場合は［ビデオ］、写真を転送する場合は［フォト］をクリックする。**
選んだ機能のタブが有効な状態で、Media Manager for WALKMANが起動します。［スタート］メニューから、直接Media Manager for WALKMANを起動することもできます。

3 **転送先リストで［WALKMAN］*1を選ぶ。**
*1 Windowsのエクスプローラなどで本機の名前を変更しているときは変更した名前を選んでください。

4 **転送したいビデオ、または写真をクリックする。**

5 **をクリックして転送を始める。**
転送中画面が表示されます。
転送されたビデオや写真は、画面下側のWALKMANに追加されます。
転送を途中で止めるには、 アイコンをクリックします。

ヒント

- Windowsのエクスプローラを使って、本機にビデオや写真を転送することもできます（☞30ページ）。

ご注意

- 本機に「USB接続を解除しないでください。」と表示されているときはUSBケーブルをはずさないでください。転送中のデータが破損することがあります。
- 本機で再生できないファイルは転送できません。 が表示されます。
本機で再生できるファイルの種類については、☞33、82、83ページをご覧ください。

次のページへつづく☞

Windowsのエクスプローラを使って転送する

エクスプローラでドラッグアンドドロップしたビデオや写真も再生することができます。

1 **付属のUSBケーブルで本機とパソコンを接続する。**
USBケーブルのコネクタは、 を上にして差し込みます。

2 **Windowsのエクスプローラで本機を選び、ファイルをドラッグアンドドロップする。**
本機は、エクスプローラ上では「WALKMAN」として表示されます。

ご注意

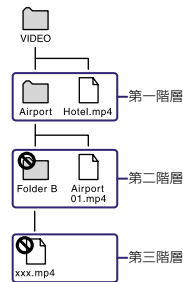
- 本機に「USB接続を解除しないでください。」と表示されているときはUSBケーブルをはずさないでください。転送中のデータが破損することがあります。
- 本機をパソコンに接続しているとき、パソコンの起動または再起動をすると、本機が正常に動作しないことがあります。その場合は、本機のRESETボタンを押して、本機をリセットしてください(☞58ページ)。パソコンを起動または再起動するときは、本機の接続をはずしてください。
- 「MUSIC」、「OMGAUDIO」フォルダ内のファイルやフォルダ名を変更したり、ファイルを転送したりしないでください。本機が正常に動作しなくなることがあります。

ビデオの場合

- **本機内のデータをWindowsのエクスプローラで見たとき**

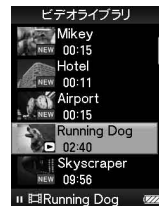
「VIDEO」フォルダにデータを転送します。
「VIDEO」フォルダ以下の、第一階層のファイルや第一階層のフォルダ内のファイル(第二階層のファイル)が再生できます。
フォルダ内にさらにフォルダを作成してファイルを置いても(第三階層以下)再生できません。

ご注意

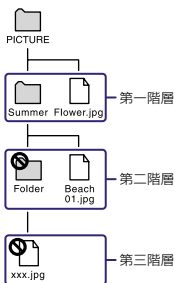
- 「VIDEO」フォルダのフォルダ名は変更しないでください。本機で表示されなくなります。

- **本機で見たとき**

ビデオファイルは転送された順番に表示されます(最新のビデオがリストの先頭に表示されます)。

ビデオ/写真

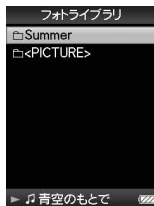
次のページへつづく☞

フォトの場合

• 本機内のデータをWindowsのエクスプローラで見たとき

「PICTURE」フォルダにデータを転送します。
「PICTURE」フォルダ以下の、第一階層のファイルや第一階層のフォルダ内のファイル(第二階層のファイル)が再生できます。
フォルダ内にさらにフォルダを作成してファイルを置いても(第三階層以下)再生できません。

ご注意

- 「PICTURE」フォルダのフォルダ名は変更しないでください。本機で表示されなくなります。

• 本機で見たとき

データはアルファベット順に表示されます。「PICTURE」フォルダ直下の写真は<PICTURE>フォルダ内にあります。

ビデオフォーマットについて

さまざまなビデオのファイルフォーマットを本機で再生できるように変換するためには、別売りの「Image Converter 3 ver3.1 (WMS-NWIC31)」をお買い求めください。

対応ビデオコーデック

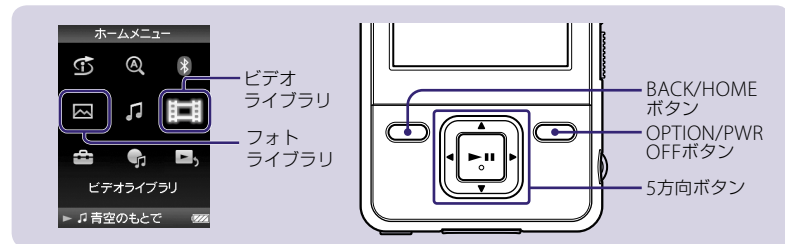
	Media Manager for WALKMAN	Image Converter 3
MPEG-4	○[*1]	○
MPEG-1/MPEG-2	—	○
AVC (H.264/AVC) Baseline Profile	○[*1]	○
DV AVI	—	○
QuickTime[*2]/WMV[*3]	—	○

[*1] 転送機能のみです。変換機能はありません。

[*2] QuickTime形式およびm4vのファイルを変換するには、最新のQuickTimeをパソコンにインストールする必要があります。

[*3] WMV（Windows Media Video)形式のファイルを変換するには、最新のWindows Media Playerをパソコンにインストールする必要があります。

ビデオ／写真を再生する

Media Manager for WALKMANまたはWindowsのエクスプローラで転送したビデオは本機のビデオライブラリ、写真はフォトライブラリに保存されます。それぞれ一覧から選んで再生できます。

1 **ホームメニューが表示されるまでBACK/HOMEボタンを押したままにする。**

2 **▲/▼/◀/▶ボタンで (ビデオライブラリ)、または (フォトライブラリ)を選び、▶IIボタンを押して決定する。**

ビデオ一覧、または写真フォルダ一覧が表示されます。

3 **▲/▼/◀/▶ボタンで再生したいビデオ、または写真フォルダを選び、▶IIボタンを押して決定する。**

写真を表示する場合は、さらに写真一覧から写真を選び、▶IIボタンを押して決定します。

選んだビデオまたは写真が再生されます。

ヒント

- ビデオや写真を横向きで再生できます。OPTION/PWR OFFボタンを押し、オプションメニューから「ビデオ表示方向」または「写真表示方向」を選び▶IIボタンを押して決定します。
- 本機ではビデオ一覧または写真一覧の表示形式を変更したり、写真のスライドショー再生もできます。詳しくは、「詳細操作ガイド（PDF）」の「ビデオを見る」、「写真を見る」の章をご覧ください。
- Windowsエクスプローラを使って転送するビデオファイルにサムネイル（一覧に表示するための小さな画像）を付けることができます。以下の規則に従って作成してください。
  - JPEG形式のファイルにする
  - 横160×縦120ドットにする
  - ビデオファイルと同じ名前の".jpg" ファイルとする
  - ビデオファイルと同じフォルダに置く

ご注意

- ファイル形式によっては、サムネイルが表示されないことがあります。

次のページへつづく☞

ビデオ／写真を削除する

本機に転送したビデオや写真は削除できます。
削除の方法は、ビデオと写真で異なります。

ビデオを削除する

1 **ビデオを再生する手順の手順 2（☞ 34ページ）まで行う。**

2 **▲/▼/◀/▶ボタンで削除したいビデオを選び、OPTION/PWR OFFボタンを押す。**

3 **▲/▼/◀/▶ボタンで「このビデオを削除」を選び、▶IIボタンを押して決定する。**

4 **▲/▼/◀/▶ボタンで「はい」を選び、▶IIボタンを押して決定する。**
ビデオが削除されます。

ヒント
- ビデオの再生画面でもビデオの削除ができます。再生中にOPTION/PWR OFFボタンを押し、オプションメニューから「このビデオを削除」を選びます。
- 本機を使って削除する以外にパソコンと接続して削除することもできます。Media Manager for WALKMANで転送したものはMedia Manager for WALKMANで、Windowsのエクスプローラで転送したものはWindowsのエクスプローラを使って削除してください。

写真を削除する

写真は本機を使って削除できません。パソコンと本機を接続し、Media Manager for WALKMANで転送したものはMedia Manager for WALKMANで、Windowsのエクスプローラで転送したものはWindowsのエクスプローラを使って削除してください。

ご注意
- 本機に転送後、Windowsのエクスプローラでファイル名を変更した場合、Media Manager for WALKMANでは削除できません。Windowsのエクスプローラを使って削除してください。

パソコンを使わずに音楽を録音する

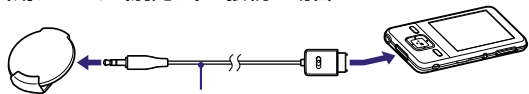
本機とオーディオ機器を、本機での録音に対応した別売りのアクセサリーを使って接続すると、パソコンを介さずに本機でCDなどから曲を録音することができます。
録音する前に本機を充分に充電してください。

ご注意

- 日付と時刻が合っていないとフォルダ名や曲名が正しい日付と時刻になりません。
  録音をする前に日付と時刻が正しく設定されているかご確認ください(☞ 44ページ)。

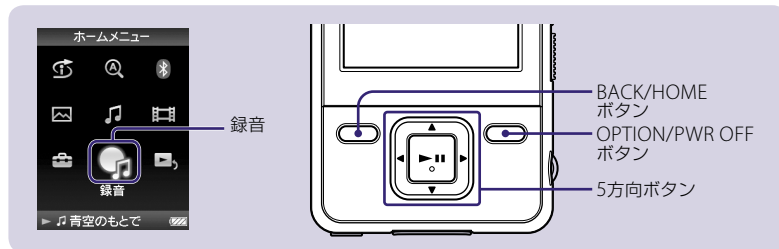
接続する

1 本機での録音に対応した別売りのアクセサリーを使って、本機とオーディオ機器を接続する。
詳しくは、別売りのアクセサリーの取扱説明書をご覧ください。

録音用ケーブル(別売り)を接続の場合

ヒント

- 本機での録音に対応した別売りアクセサリーには、クレードル(BCR-NWU5)や録音用ケーブル(WMC-NWR1)などがあります。

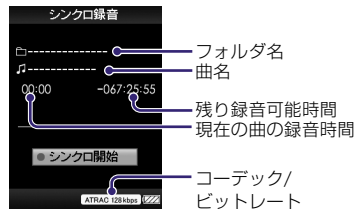
シンクロ録音する

録音に対応したアクセサリーを使って接続した録音元のオーディオ機器で再生をはじめると、本機が自動的に音を検出して録音を開始します。

1 ホームメニューが表示されるまでBACK/HOMEボタンを押したままにする。

2 ▲/▼/◀/▶ボタンで (録音)を選び、▶IIボタンを押して決定する。

3 ▲/▼/◀/▶ボタンで「シンクロ録音」を選び、▶IIボタンを押して決定する。
録音画面が表示されます。

4 「シンクロ開始」が表示されていることを確認して、▶IIボタンを押して決定する。
録音一時停止状態になります。

次のページへつづく☞

5 **オーディオ機器で、録音したいCDなどを再生する。**

音を検出すると、新しいフォルダが作成され自動的に録音が開始されます。
録音元で2秒以上無音[*1]が続くと、自動的に録音が一時停止状態になり、再び音を検知すると、次の曲の録音が開始されます。5分間無音が続くと、自動的にシンクロ録音が終了されます。

[*1] 無音とは本機では約4.8 mV以下の入力レベルです。

録音を止めるには

「停止」が表示されていることを確認して、▶IIボタンを押します。

ヒント

- 手順 **3** で「マニュアル録音」を選ぶと録音の開始と停止を手動で選んで録音することもできます。「録音開始」を選ぶと録音を開始し、録音中に「停止」を選ぶと録音を停止します。

本機で録音するときのヒントとご注意

本機で録音した曲の管理について

本機で録音した曲はパソコンから転送した曲とは別に保存・管理されます。転送した曲はミュージックライブラリ内に入り、録音した曲は録音フォルダに入ります。シャッフル再生などをしても、ミュージックライブラリ内の曲と録音した曲が混ざって再生されることはありません。
また、本機で録音した曲は、SonicStageのマイライブラリに取り込めば、インターネットからアルバム名や曲名などの情報も取得できます。マイライブラリに取り込んだ曲を本機に転送すると、他の転送した曲と同様に再生できます。
詳しくは、SonicStageのヘルプをご覧ください。

録音モニターについて

- 本機のヘッドホンで録音元の音が確認(録音モニター)できます。
- 本機のVOL＋/－ボタンで録音モニター音のボリュームの調整ができます。ただし、ボリュームの調整をしても録音レベルは変わりません。
- 録音モニター時にボリューム以外の音の効果の設定などはできません。

録音した曲の曲名について

本機で録音した曲はすべてフォルダに格納されます。曲名は「NNN-hhmm」(通し番号-時分)、フォルダ名は「yyyy-mm-dd」(西暦４桁-月２桁-日２桁)となります。
本機の日時をあらかじめ正しく設定しておくことをおすすめします(☞ 44ページ)。

録音レベルとビットレートについて

- 録音元のオーディオ機器のオーディオ出力レベルによっては適切な録音レベルで録音できない場合があります。
  録音レベル切り換えスイッチがあるアクセサリーの場合は、スイッチを切り換えることにより、適切な録音レベルにすることができる場合があります。
  詳しくは、本機での録音に対応した別売りのアクセサリーの取扱説明書をご覧ください。
- 「シンクロ録音する」(☞ 39ページ)の手順 **4** でOPTION/PWR OFFボタンを押して「ビットレート設定」を選ぶと、録音する曲のビットレートを設定することができます。

制限事項について

- 1つの曲として、録音できる時間は1,000分、容量は2 GBまでになります。録音時間が1,000分または容量が2 GBを超える場合は自動的に録音停止されます。
- 1つのフォルダに録音できる最大曲数は255曲です。本機に録音できる曲の最大数は4,000曲、フォルダの最大数は255個です。
- 以下のときは録音されません。
  – 本機での録音に対応した別売りのアクセサリーと本機が接続されていないとき
  – 本機の空き容量が少ないとき
  – すでに録音した曲が4,000曲あるとき
  – すでにフォルダ数が255個あるとき
- 録音中はBluetooth接続を開始できません。また、Bluetooth接続中に、本機での録音を開始しても録音はできません。

次のページへつづく☞

録音した曲を再生する

本機で録音した曲を再生します。

1 **ホームメニューが表示されるまでBACK/HOMEボタンを押したままにする。**

2 **▲/▼/◀/▶ボタンで (録音)を選び、▶IIボタンを押して決定する。**

3 **▲/▼/◀/▶ボタンで「録音した曲」を選び、▶IIボタンを押して決定する。**
フォルダ一覧が表示されます。

4 **▲/▼/◀/▶ボタンでフォルダを選び、▶IIボタンを押して決定する。**
選んだフォルダ内の曲一覧が表示されます。

5 **▲/▼/◀/▶ボタンで曲を選び、▶IIボタンを押して決定する。**
再生画面が表示され、選んだ曲から順に再生します。
◀/▶ボタンを押すと、前の曲や再生中の曲、次の曲の頭出しをします。押したままにすると、早戻しや早送りをします。再生を一時停止するには、▶IIボタンを押します。

録音した曲の再生でできること

録音した曲の再生時に有効となるのは以下の設定および操作になります。

- プレイモード(リピートやシャッフル再生)の変更
- 音質設定(イコライザ、VPT(サラウンド)、DSEE(高音域補完)、クリアステレオ、ダイナミックノーマライザ)の変更(☞ 25ページ)
- 再生範囲の変更

ご注意

- 録音した曲は、ミュージックライブラリからの再生(☞ 22ページ)、インテリジェントシャッフル再生およびブックマークリストへの登録、曲の評価ができません。

録音した曲を削除する

本機で録音した曲を削除できます。パソコンから転送した曲(ミュージックライブラリ内の曲)を削除する場合は、☞ 24ページをご覧ください。

1 **「録音した曲を再生する」(☞42ページ)の手順 3 または 4 までを行い、フォルダ一覧画面または、曲一覧画面を表示する。**
曲を削除したい場合は曲一覧から、フォルダを削除したい場合はフォルダ一覧から行います。

2 **▲/▼/◀/▶ボタンで削除したい曲またはフォルダを選び、OPTION/PWR OFFボタンを押す。**
オプションメニューが表示されます。

3 **▲/▼/◀/▶ボタンで「この曲を削除」または「このフォルダを削除」を選び、▶IIボタンを押して決定する。**
削除を確認するメッセージが表示されます。本機で録音した曲を削除した場合、曲の復活はできません。削除する前に充分に確認してください。

4 **▲/▼/◀/▶ボタンで「はい」を選び、▶IIボタンを押して決定する。**
選択した曲が削除されると「削除しました。」と表示されます。

次のページへつづく☞

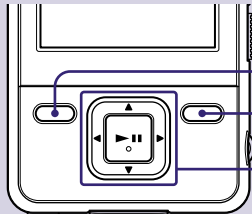
ヒント

- 曲を削除するのをやめるには手順 **4** で「いいえ」を選び、▶IIボタンを押します。
- 録音したすべての曲を一度に削除するには、手順 **3** で「全フォルダを削除」を選び、▶IIボタンを押します。

ご注意

- 削除できる曲は本機で録音した曲のみです。
- ミュージックライブラリ内の曲や録音した曲を再生しているときは、再生を一時停止してから操作を行ってください。
- フォルダ内の曲を全て削除した場合、そのフォルダは自動的に削除されます。
- 削除する曲が多い場合は、削除が完了するまでに時間がかかる場合があります。

時計を合わせる

お買い上げ時の設定では、SonicStageを起動させて、本機とパソコンを接続すると、本機の時刻がパソコンの時刻と同期して設定される「対応ソフト・機器と同期」の設定になっています。時計が正しく設定されていない場合には下記の手順で手動で設定することもできます。

1 **ホームメニューが表示されるまでBACK/HOMEボタンを押したままにする。**

2 **▲/▼/◀/▶ボタンで (各種設定)を選び、▶IIボタンを押して決定する。**

3 **▲/▼/◀/▶ボタンで「共通設定」を選び、▶IIボタンを押して決定する。**
共通設定項目一覧が表示されます。

4 **▲/▼/◀/▶ボタンで「日付時刻設定」を選び、▶IIボタンを押して決定する。**
日付時刻設定画面が表示されます。

5 **▲/▼/◀/▶ボタンで「マニュアル設定」を選び、▶IIボタンを押して決定する。**
マニュアル設定画面が表示されます。

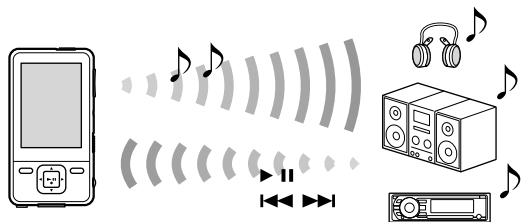
6 **◀/▶ボタンで年を選び、▲/▼ボタンで年の数字を選ぶ。**
同様に「月」、「日」、「時」、「分」の数字を入力し、▶IIボタンを押して決定する。
本機の時計設定が完了します。

ご注意

- 本機を使用しないまま長期間放置するなど、本体の内蔵電池が放電しきると、設定した日時がリセットされ、「-」で表示されます。
- 現在時刻は、1ヶ月で最大60秒の誤差を生じる場合があります。現在時刻の表示が正確ではない場合は、設定し直してください。

Bluetoothとは

こんなことができます

本機はBluetooth技術を搭載しています。本機からBluetooth対応受信機*[1]（ヘッドホン、カーステレオ、スピーカー、ステレオミニコンポなど）にオーディオ信号を電波で伝送することで、ワイヤレスで音楽を楽しむことができます。本機から音楽、ビデオの音声の送信はできますが、受信はできません。

本機はAVRCP (Audio/Video Remote Control Profile)に対応しています。
Bluetoothヘッドホン*[2]などから本機の基本操作を行うことができます。

*[1] Bluetooth受信機が、A2DP (Advanced Audio Distribution Profile) に対応している必要があります。

*[2] AVRCPに対応している必要があります。

ヒント

- 接続するBluetooth機器のプロファイルがAVRCP Ver. 1.3に対応している場合、曲名などの曲情報を送ることができます。接続するBluetooth機器によっては、本機の設定や電池残量なども送ることができます。ただし、受信側の機器によって受信できる情報は異なります。
- 接続するBluetooth機器によっては、本機のVOL+/–ボタンを使って接続するBluetooth機器側の音量の調節ができます。

本機で可能なBluetooth機能について

- ペアリングを済ませた機器一覧からBluetooth接続を行う機器を選べます。
- 本機のBLUETOOTHボタンを使ってBluetooth接続ができます。（クイック接続）（☞ 52ページ）
- ペアリングを済ませた機器ごとに、本機の音質効果の設定を、有効または無効にすることができます。

ヒント

- Bluetooth通信を使った携帯電話への転送はできません。
- Bluetooth通信を使ったファイルの転送はできません。

Bluetooth通信の準備

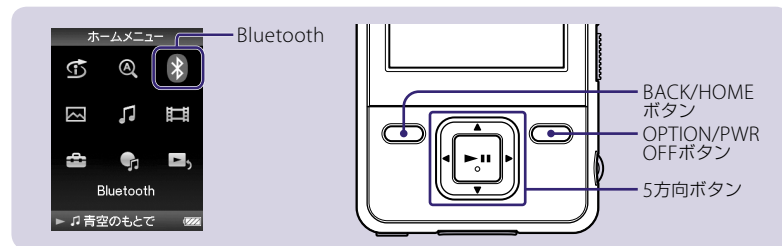
Bluetooth通信を使って音楽などを楽しむには、あらかじめ本機とBluetooth機器のペアリングおよびBluetooth接続が必要です（☞ 52ページ）。
ペアリングおよびBluetooth接続について詳しくは、「詳細操作ガイド（PDF）」もご覧ください。

次のページへつづく☞

Bluetooth通信の準備をする（ペアリング）

ペアリングとは？

Bluetooth機器では、あらかじめワイヤレス接続する機器同士を登録しておく必要があります。この登録のことを「ペアリング」といいます。
一度ペアリングすれば、再びペアリングする必要はありませんが、以下の場合は再度ペアリングが必要です。

- 修理を行ったときなど、ペアリング情報が削除されてしまったとき
- 9台以上の機器をペアリングしようとしたとき
  本機は、Bluetooth機器を合計8台までペアリングすることができます。すでに8台の機器をペアリングしているときは、ペアリング機器を追加することはできません。ペアリング済み機器一覧から不要なBluetooth機器を削除してから、新しい機器をペアリングしてください。
- 接続するBluetooth機器側で本機とのペアリング情報を削除したとき
- 本機をお買い上げ時の設定に戻したときは、すべてのペアリング情報が削除されます。

1 **相手側Bluetooth機器と本機を1 m以内に置く。**

2 **相手側Bluetooth機器をペアリング処理状態にする。**
相手側Bluetooth機器の取扱説明書をご覧ください。

3 **ホームメニューが表示されるまでBACK/HOMEボタンを押したままにする。**

4 **▲/▼/◀/▶ボタンで（Bluetooth）を選び、▶IIボタンを押して決定する。**

5 **▲/▼/◀/▶ボタンで「ペアリング」を選び、▶IIボタンを押して決定する。**
ペアリングの画面に切り換わり、ペアリングが可能な機器の一覧が「周辺機器検索」画面に表示されます。
Bluetooth通信の状態はBluetoothランプで確認できます。

次のページへつづく☞

6 ▲/▼/◀/▶ボタンでペアリングする機器を選び、▶IIボタンを押して決定する。

ペアリングが開始されます。パスキー *[1]の入力を求められた場合は、手順 **7** へ進んでください。パスキーの入力を求められない場合は、ペアリング処理が進み、ペアリングが完了します。

7 パスキーを入力する。

▲/▼ボタンで数字を選び、◀/▶ボタンでカーソルを移動する。パスキーの入力が終了したら、▶IIボタンを押して決定する。

相手側Bluetooth機器とのパスキー交換が行われ、ペアリングが完了します。
ペアリングが完了すると、続けてその相手側Bluetooth機器と接続処理が行われ、Bluetooth機能が使用できます。Bluetooth通信の状態はBluetoothランプで確認できます。

*[1] パスキーは、パスコード、PINコード、PINナンバー、パスワードなどと呼ばれる場合があります。ソニー製のBluetooth機器のパスキーは、「0000(ゼロゼロゼロゼロ)」になります。他社製品の場合は、お使いのBluetooth機器の取扱説明書をご覧ください。

ペアリングを途中で止めるには

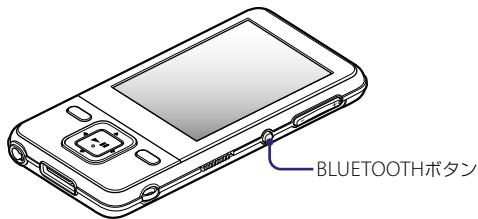
BACK/HOMEボタンを押す、またはBLUETOOTHボタンを押したままにしてください。「ペアリングを中止しました。」が表示され、Bluetooth機能が解除され、手順 **5** の画面に戻ります。

ペアリングが完了しないときは

ペアリングに失敗すると、「ペアリングに失敗しました。」が表示され、手順 **5** の画面に戻ります。もう一度手順 **5** から操作してください。

次のページへつづく☞

Bluetooth接続して音楽を聞く

BLUETOOTHボタンを使って(クイック接続)、手軽にBluetooth接続を行うことができます。Bluetooth接続が完了すると、続けて音楽またはビデオの音声を接続したBluetooth機器で聞くことができます。

ご注意

- Bluetooth接続を始める前に、本機と、接続するBluetooth機器のペアリングを完了させてください(☞48ページ)。

1 **相手側Bluetooth機器をBluetooth接続待ちの状態にする。**
相手側Bluetooth機器の取扱説明書をご覧ください。

2 **接続画面が表示されるまでBLUETOOTHボタンを押したままにして、本機と相手側Bluetooth機器をBluetooth接続する。**

3 **本機の音楽またはビデオを再生する。**

Bluetooth通信を切断するには

BLUETOOTHボタンを押したままにする、またはホームメニューから(Bluetooth)―「Bluetoothオフ」の順に選んでください。

ホームメニューからBluetooth接続するには

(Bluetooth)－「Bluetooth機器」－接続するBluetooth機器の順に選んでください。

ヒント

- お買い上げ時の設定では、最初にペアリングをした機器が「クイック接続」するための機器に設定されます。機器を変更するには、ホームメニューから(各種設定)―「Bluetooth設定」－「クイック接続」の順に選んでください。
- 相手側Bluetooth機器からBluetooth接続が切断されると、本機はBluetooth接続の待機状態になります。Bluetooth接続が切断されて約10分以内に接続を行わなかった場合、Bluetooth機能は自動的に解除されます。
- 音楽やビデオの音声の通信がない状態でBluetooth接続をしているときは、Bluetoothランプがゆっくり点滅し続け、このままBluetooth機能は約1日維持されます。お使いの機種の状態によっては、この状態を維持する時間は異なります。
- AVRCPに対応したBluetooth機器から、以下の操作ができます。
  – 再生
  – 再生一時停止(停止)
  – 早送り／早戻し
  – 次の曲／再生中の曲の頭出し
  – 次のフォルダ／再生中のフォルダの最初の曲の頭出し
- 接続するBluetooth機器によっては、本機のVOL+/–ボタンを使って接続するBluetooth機器側の音量の調節ができます。
- Bluetooth通信中に音が途切れたり、よりよい音質で楽しみたい場合は、音質モードを変更することができます。詳しくは、「詳細操作ガイド(PDF)」の「音質モードを変更する」をご覧ください。

次のページへつづく☞

ご注意

- Bluetooth接続処理は、約10分以内に終了させてください。
- 本機の音楽またはビデオの操作をする前に以下のことを確認してください。
  – 接続するBluetooth機器の電源が入っている。
  – 本機と、接続するBluetooth機器のペアリングが完了している（☞ 48ページ）。
  – 接続するBluetooth機器のプロファイルが本機で対応しているプロファイルである（☞ 85ページ）。
- Bluetooth接続中は、ヘッドホンジャックに接続した有線ヘッドホンまたはWM-PORTジャックに接続したアクセサリーなどから音声は出力されません。
- 確認音はBluetooth通信では無効になります。

Bluetooth技術とは？

Bluetooth無線技術は、ヘッドホンやステレオミニコンポなどのデジタル機器同士で通信を行うための近距離無線技術です。約10 m程度までの距離で通信を行うことができます。
無線技術によってUSBのように機器同士をケーブルでつなぐ必要はなく、また、赤外線技術のように機器同士を向かい合わせたりする必要もありません。例えば片方の機器をかばんやポケットに入れて使うこともできます。
Bluetooth規格は世界中の数千社の会社が賛同している世界標準規格であり、世界中のさまざまなメーカーの製品で採用されています。

Bluetooth機能の対応バージョンとプロファイル

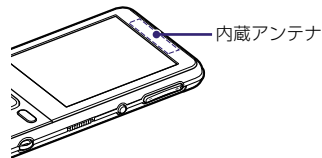
プロファイルとは、Bluetooth製品の特性ごとに機能を標準化したものです。本機は下記のBluetoothバージョンとプロファイルに対応しています。

- 対応Bluetoothバージョン：Bluetooth標準規格Ver. 2.0準拠
- 対応Bluetoothプロファイル：A2DP（Advanced Audio Distribution Profile）、AVRCP（Audio/Video Remote Control Profile）

Bluetooth機能に準拠した機器について

Bluetooth通信を使って本機と通信できる機器について詳しくは、「最新の情報を見るには」（☞ 2ページ）にあるホームページをご覧ください。

ご注意

- 以下の場合は、Bluetooth通信に障害を起こす場合があります。
  – 金属物の近くでBluetooth通信を行っているとき
  – 無線LANが構築されている場所、電子レンジを使用中の周辺、またはその他電磁波が発生している場所などでBluetooth通信を行っているとき
  – 本機の内蔵アンテナ部分が手などでおおわれているとき

再生時間について

本機の設定変更や、電源管理を適切に行うことで、電池の使用量を節約し、長時間使用できます。
ここでは、電池を長持ちさせる方法をご紹介します。

手動で電源を切る

OPTION/PWR OFFボタンを押したままにすると、画面表示が消えて再生待機状態になり、電池の消耗を抑えられます。
さらに、再生待機状態のまま最長で1日経過すると、自動的に電源が切れます。

電池を長持ちさせる設定

以下の設定にすると電池を長持ちさせることができます。
画面とビデオに関する設定の方法について詳しくは「詳細操作ガイド（PDF）」をご覧ください。

画面に関する設定	「輝度設定」	「1」
	「スクリーンセーバー設定」－「種類」	「画面オフ」
	「スクリーンセーバー設定」－「待ち時間」	「15秒」
	「曲切り換わり時表示」	「オフ」
音質に関する設定（☞ 25ページ）	「イコライザ」	「オフ」
	「VPT（サラウンド）」	
	「DSEE（高音域補完）」	
	「クリアステレオ」	
	「ダイナミックノーマライザ」	
ノイズキャンセリング設定（☞ 11ページ）		NOISE CANCELINGスイッチをオフにする。
ビデオに関する設定	「画面オフ設定」	「ホールド時画面オフ」
Bluetooth通信に関する設定（☞ 52ページ）		Bluetooth通信を切断する。

データのファイル形式やビットレートを変える

曲やビデオ、写真のフォーマットやビットレートによっても、電池の使用可能時間（連続再生時間）が変わります。使用時間や充電時間は☞ 83、84ページをご覧ください。

故障かな？と思ったら

サービス窓口にご相談になる前に、以下の手順に従ってください。

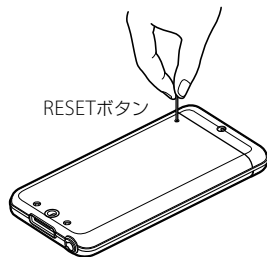
1 「故障かな？と思ったら」の各項目で調べる。

2 パソコンに接続して、充電をする。
充電することで問題が解決することがあります。

3 クリップなどの細い棒で、RESETボタンを押す。
動作中にRESETボタンを押すと、本機に保存しているデータや設定が消去されることがあります。

4 SonicStageやMedia Manager for WALKMANを使用しているときは、ソフトウェアのヘルプで調べる。

5 「ウォークマン カスタマーサポート」のホームページで調べる。
http://www.sony.co.jp/walkman-support/

6 手順 1 ～ 5 を確認しても問題が解決しないときは、ソニーの相談窓口（☞最終ページ）またはお買い上げ店に相談する。

（PDF ☞ XXページ）は、「詳細操作ガイド（PDF）」の参照ページです。

本機の操作

Q 再生音が出ない

- 音量がゼロになっている。
  - → 音量を上げてください（☞ 9ページ）。
- ヘッドホンがジャックにしっかり差し込まれていない。
  - → 正しく接続されていないと再生音が正常に聞こえません。「カチッ」と音がするまで差し込んでください（☞ 8ページ）。
- ヘッドホンのプラグが汚れている。
  - → 乾いた布でプラグの汚れをふきとってください。
- Bluetooth機能が有効になっている。
  - → Bluetooth機能が有効なときは本機のヘッドホンから出力されません。Bluetooth機能を解除してください（☞ 53ページ）。

Q 曲やビデオが再生されない、写真が表示されない

- 電池が消耗している。
  - → 充分に充電してください（☞ 14ページ）。
  - → 充電しても反応しない場合は、RESETボタンを押して本機をリセットしてください（☞ 58ページ）。
- 曲やビデオ、写真が入っていない。
  - → 表示されるメッセージに従って、パソコンから曲やビデオ、写真のデータを転送してください。
- ドラッグアンドドロップで転送したビデオや写真の階層が適切ではない（☞ 30ページ）。
- 本機で再生できないフォーマットのファイルを転送した（☞「主な仕様」の「再生できるファイルの種類」（☞ 82ページ））。
  - → ファイルの仕様によっては再生できないことがあります。

次のページへつづく☞

Q 転送したビデオや写真がリストに表示されない

- 表示できる最大ファイル数を超えている。ビデオの最大表示数は1,000、写真の最大表示数は10,000、写真フォルダー一覧で表示される最大写真フォルダ数は1,000です。
  - → 不要なビデオ、写真を削除してください。
- 対応していないフォーマットで記録されたビデオや写真は本機で認識されず、リストに表示されません（☞ 82ページ）。
- パソコンから本機に転送したビデオのファイル名を変更したり、ファイルの場所を移動したりすると本機で認識されない場合があり、リストに表示されません。
- 転送した写真をフォルダごとに整理した場合、正しい場所に保存されているか確認してください（☞ 30ページ）。
- 適切なフォルダと階層にデータを置いていない。
  - → 適切なフォルダと階層にデータを置いてください（☞ 30ページ）。

Q 1つのアルバムなど限られた範囲でしか再生されない

- 「再生範囲設定」（PDF☞ 53ページ）が「選択範囲内を再生」に設定されている。
  - → 再生範囲の設定を変更してください。

Q 写真を削除できない

- 写真は本機上で削除できません。
  - → Media Manager for WALKMANで転送したものはMedia Manager for WALKMANで、WindowsのエクスプローラでI転送したものはWindowsのエクスプローラを使って削除してください。

Q 転送したアルバムが、複数になって表示される

- コンピレーションアルバムをSonicStageでパソコンに取り込む場合、複数のアルバムとして取り込まれることがあります。その場合は、SonicStageで一つのアルバムになるように編集してから、本機に転送し直してください。編集について詳しくは、SonicStageのヘルプをご覧ください。

Q 本機の動作がおかしい

- 本機を接続したままの状態で、接続先のUSB機器（パソコンなど）の電源を入れた／切った。
  - → RESETボタンを押して本機をリセットしてください（☞ 58ページ）。USB機器の電源を入れる／切る場合は、USB機器から本機を取りはずしてから行ってください。

Q 雑音が入る

- 静かな場所でノイズキャンセリング機能をオンにしている。
  - → 静かな場所や周囲の騒音の種類によってはノイズが大きくなると感じる場合があります。その際はノイズキャンセリング機能をオフにしてください（☞11ページ）。なお、付属のヘッドホンは、屋外や電車内など騒音の多い場所でノイズキャンセリング効果を最大限に生かすために、ヘッドホンの音圧感度を大幅に高めています。そのため、ノイズキャンセリング機能をオフにしても静かな場所ではかすかなホワイトノイズが聞こえる場合があります。
- 近くで携帯電話などの電波を発する機器を使用している。
  - → 携帯電話などを本機から離して使用してください。
- CDなどから取り込んだ曲が破損している。
  - → データを削除して取り込み、転送し直してください。曲を取り込むときは、その他の作業を中止してください。データが破損する原因となることがあります。
- Bluetooth通信が不安定になっている。
  - → Bluetooth通信を行う場所によっては雑音が入る場合があります。場所を移動してから、Bluetooth接続をし直してください（☞ 52ページ）。

Q ノイズキャンセリング機能の効果が得られない

- ノイズキャンセリング機能をオフにしている。
  - → NOISE CANCELINGスイッチをオンにしてください。
- 付属のヘッドホンを装着していない。
  - → 付属のヘッドホンを使用してください。
- ヘッドホンを正しく装着していない。
  - → イヤーピースを交換したり、おさまりの良い位置に調整するなど、ぴったりと耳に装着させるようにしてください（☞ 3ページ）。イヤーピースがはずれて耳に残らないよう、イヤーピースを交換する際には、ヘッドホンにしっかり取り付けてください。
- ノイズキャンセル調整が適切に設定されてない可能性がある。
  - → 本機は、ノイズキャンセリング機能の効果が最も得られるようにあらかじめ設定されていますが、ヘッドホンに搭載されているマイクの感度を上げる（または下げる）ことで更に効果が得られる場合があります。ノイズキャンセルの調整をし直してください（☞ 11ページ）。
- 静かな場所で使用している。
  - → 静かな場所や、周囲の騒音の種類によっては、ノイズキャンセリング機能の効果が感じられないことがあります。

次のページへつづく☞

Q　VPT（サラウンド）設定、クリアステレオ機能の効果が感じられない

- 別売りのクレードルなどを使用して外部スピーカーに音声を出力した場合、ヘッドホンで聞いたときよりもVPT（サラウンド）設定やクリアステレオ機能の効果が感じられないことがあります。これはヘッドホンで最適になるように設計されているためで故障ではありません。
また、接続したBluetooth機器で音楽やビデオの音声を聞いている場合、そのBluetooth機器に対して、本機の「サウンドエフェクト」が「オフ」に設定されているとVPT（サラウンド）の効果は得られません。

Q　ボタン操作に反応しない

- HOLDスイッチがHOLDの位置になっている。
  → HOLDスイッチを逆の位置にスライドしてください（☞ 9ページ）。
- 結露している。
  → そのまま約2、3時間おいてください。
- 電池の残量が少ない、または消耗している。
  → 本機を起動中のパソコンに接続するなどして、充分に充電してください（☞ 14ページ）。
  → 充電しても反応しない場合は、RESETボタンを押して本機をリセットしてください（☞ 58ページ）。
- 本機はUSB接続中は操作できません。
  → パソコンとの接続をはずして操作してください。

Q　再生を停止できない

- 本機では、再生の停止は一時停止になります。►II ボタンを押すと、II が表示され、再生を一時停止します。

Q　本機が動作しない

- 電池の残量が少ない、または消耗している。
  → 本機を起動中のパソコンに接続するなどして、充分に充電してください（☞ 14ページ）。
  → 充電しても反応しない場合は、RESETボタンを押して本機をリセットしてください（☞ 58ページ）。

Q　転送した曲やビデオ、写真が見つからない

- Windowsのエクスプローラで、本機の内蔵フラッシュメモリーを初期化（フォーマット）した。
  → 本機上で、内蔵フラッシュメモリーを初期化（フォーマット）してください（☞ 75ページ）。
- 転送中、本機からUSBケーブルがはずれた。
  → 使用可能なファイルをパソコンに戻し、本機上で、本機の内蔵フラッシュメモリーを初期化（フォーマット）してください（☞ 75ページ）。
- ドラッグアンドドロップで転送したビデオや写真の階層が適切ではない（☞ 30ページ）。
- 本機で再生できないフォーマットのファイルを転送した（☞「主な仕様」の「再生できるファイルの種類」（☞ 82ページ））。
  → ファイルの仕様によっては再生できないことがあります。

Q　本機に写真を転送することができない

- ファイルサイズの大きな写真を本機に転送した。
  → 写真のファイルサイズが大きいと転送に時間がかかることがあります。

Q　再生音が大きくならない

- AVLSが設定されている。
  → AVLS設定を解除してください（PDF☞ 133ページ）。

Q　右チャンネルから音が出ない、または右チャンネルの音が左右両方のヘッドホンから聞こえる

- ヘッドホンがジャックにしっかり差し込まれていない。
  → 正しく接続されていないと再生音が正常に聞こえません。「カチッ」と音がするまで差し込んでください（☞ 8ページ）。

Q　再生していたら急に音が止まった

- 電池の残量が少ない、または消耗している。
  → 本機を起動中のパソコンに接続するなどして、充分に充電してください（☞ 14ページ）。
- 本機で再生できない曲、またはビデオを再生しようとしている。
  → 別の曲やビデオを選び、再生してください。

Q　サムネイル（ジャケット写真など）が表示されない

- 曲に適切なフォーマットのジャケット写真情報がない。
  → 本機がサポートしているファイル形式のジャケット写真情報が登録されていない曲のサムネイルは表示されません。

次のページへつづく☞

- ビデオの場合、ビデオファイルと同じ名前のサムネイル画像が必要です。
  - → 本機の「VIDEO」フォルダ内にビデオファイルと同じ名前のJPEGファイルがある必要があります。
- 写真の場合、Exifに準拠したサムネイル情報が含まれていないと、サムネイルは表示されません。
  - → 付属のMedia Manager for WALKMANで転送し直してください。

Q 本機がフォーマットできない

- 電池の残量が少ない、または消耗している。
  - → 本機を起動中のパソコンに接続するなどして、充分に充電してください（☞ 14ページ）。

Q 知らないうちに電源が切れて電源が入った

- 正常に動作しなくなったときに、本機では自動的に電源を入れ直します。

Q 正常に動作しない

- 本機をパソコンに接続しているとき、パソコンの起動または再起動をした。
  - → 本機のRESETボタンを押して、リセットしてください。パソコンを起動または再起動するときは、本機の接続をはずしてください。

画面表示

Q 画面に「□」と表示される

- 本機で表示できない文字が使用されている。
  - → 付属のSonicStageソフトウェアを使って本機で表示可能な別の文字に置き換えてください。

Q 写真を表示中に、画面が暗くなった

- 写真を表示中に「スクリーンセーバー設定」の「待ち時間」（PDF☞ 136ページ）で設定した時間以上操作がなかった。
  - → いずれかのボタンを押してください。

Q 表示が消える

- 一時停止中に3分以上操作がなかった。
  - → いずれかのボタンを押してください。
- 「スクリーンセーバー設定」の「種類」を「画面オフ」に設定した状態で（PDF☞ 135ページ）、「待ち時間」（PDF☞ 136ページ）で設定した時間以上操作がなかった。
  - → いずれかのボタンを押してください。
  - → 「スクリーンセーバー設定」の「種類」を「画面オフ」以外に設定してください（PDF☞ 135ページ）。
- ビデオ設定の「画面オフ設定」を「ホールド時画面オフ」に設定している。
  - → HOLDスイッチを逆の位置にスライドしてください（☞ 9ページ）。
  - → 「画面オフ設定」を「常時画面オン」に設定してください（PDF☞ 77ページ）。

Q メッセージが出ている

- メッセージ一覧をご覧ください（PDF☞ 174ページ）。

電源

Q 電池の持続時間が短い

- 5 ℃以下の環境で使用している。
  - → 電池の特性によるもので故障ではありません。
- 充電時間が足りない。
  - → FULL が表示されるまで充電してください。
- 本機の設定変更や電源管理を適切に行うことで、電池の使用量を節約し長時間使用できます（☞ 56ページ）。
- 本機を長期間使用していなかった。
  - → 何回か充放電を行うと、電池性能が回復します。
- 電池を充分に充電しても、使える時間がお買い上げ時の半分くらいになったときは電池が劣化しています。
  - → ソニーサービス窓口にお問い合わせください。
- Bluetooth機能が有効になっている。
  - → Bluetooth機能が有効な状態では、本機の操作を行わなくても電池が消耗します。Bluetooth機能を使わないときはBluetooth機能を解除してください（☞ 53ページ）。
- 周囲で無線LANや他のBluetooth機器などを使用している。
  - → 周囲の電波の影響により、電池の持続時間が短くなることがあります。

次のページへつづく☞

Q 充電できない

- USBケーブルがきちんとパソコンのUSBコネクタに接続されていない。
  - ➔ USBケーブルをいったんはずして、接続し直してください。
  - ➔ 付属のUSBケーブルを使用してください。
- 5 ℃～ 35 ℃の範囲外の環境で充電している。
  - ➔ 5 ℃～ 35 ℃の環境で充電してください。
- パソコンの電源が入っていない。
  - ➔ パソコンの電源を入れてください。
- パソコンがスタンバイ（スリープ）、休止状態に入っている。
  - ➔ パソコンのスタンバイ（スリープ）、休止状態を解除してください。
- 上記に当てはまらない場合は、本機のRESETボタンを押してからUSB接続をし直してください。

Q 本機の電源が自動的に切れた

- 本機は電池の消耗を防ぐために自動的に再生待機状態（画面表示を消す）になります。
  - ➔ いずれかのボタンを押すと電源が入ります。

Q 充電がすぐに終わる

- 満充電に近い場合、すぐに充電が終わります。

パソコンとの接続

Q インストールできない

- 対応のOS以外のOSを使っている。
  - ➔ パソコンの動作環境を確認してください（☞ 裏表紙）。
- すべてのWindowsのソフトウェアを終了していない。
  - ➔ ほかのソフトウェアが起動した状態でインストールを行うと、不具合が生じることがあります。特にウィルスチェックソフトウェアは負担が大きいため、必ず終了してください。
- ハードディスクの空き容量が足りない。
  - ➔ ハードディスクの空き容量は450 MB以上必要なため、不要なファイルなどを削除してください。
- Administrator権限またはコンピュータの管理者以外でログオンしている。
  - ➔ Administrator権限またはコンピュータの管理者でログオンしていない場合、インストールできないことがあります。Administrator権限またはコンピュータの管理者でログオンしてください。また、ユーザー名に全角文字をご使用の場合は、半角英数字のユーザー名で新規のアカウントを作成してください。
- メッセージダイアログがインストール画面の後ろに隠れていて、インストール作業が止まっているように見える場合がある。
  - ➔ [Alt] キーを押しながら [Tab] キーを数回押してください。ダイアログが表示されたら、メッセージに従って操作してください。
- 日本語以外のOSを使っている。
  - ➔ 日本語OS以外にはインストールできません。

Q インストール時に画面上のバーが動いていない。または、ハードディスクのアクセスランプが数分間点灯していない

- インストール作業は正常に行われているため、そのままお待ちください。お使いのパソコンによっては、インストール終了まで30分以上かかる場合があります。

Q SonicStage、またはMedia Manager for WALKMANが起動しない

- WindowsのOSをバージョンアップするなど、パソコン環境を変更すると、起動しない場合があります。「ウォークマン カスタマーサポート」（http://www.sony.co.jp/walkman-support/）のホームページで調べてください。

Q USBケーブルでパソコンにつないでも、本機の画面に「USB接続中」と表示されない

- USBケーブルがきちんとパソコンのUSBコネクタに接続されていない。
  - ➔ USBケーブルをいったんはずして、接続し直してください。
  - ➔ 付属のUSBケーブルを使ってください。
- USBハブを使用している。
  - ➔ USBハブを使用していると、表示されない場合があります。パソコンのUSBコネクタに直接接続してください。
- ソフトウェアの認証を行うために、時間がかかる場合があります。しばらくお待ちください。

次のページへつづく☞

- パソコン上でほかのソフトウェアが起動している。
  - ➔ しばらくしてから、USBケーブルを接続し直してください。それでも解決しない場合は、USBケーブルをはずしてからパソコンを再起動してください。
- ソフトウェアのインストールに失敗している。
  - ➔ 付属のCD-ROMに入っているインストーラーを使ってもう一度ソフトウェアをインストールしてください。取り込んだデータは引き継がれます。
- ご利用の環境によっては、本機とパソコンとの接続中に「USB接続中」と表示されないことがある。
  - ➔ Windowsのエクスプローラを起動してください。
- 上記に当てはまらない場合は、本機のRESETボタンを押してからUSB接続をし直してください。

Q 本機がパソコンに認識されない

- USBケーブルがきちんとパソコンのUSBコネクタに接続されていない。
  - ➔ USBケーブルをいったんはずして、接続し直してください。
- USBハブを使用している。
  - ➔ USBハブを使用していると、認識されない場合があります。パソコンのUSBコネクタに直接接続してください。
- 接続しているUSBコネクタに不具合がある可能性があります。パソコンの別のUSBコネクタに接続してください。

Q 転送できない

- USBケーブルがきちんとパソコンのUSBコネクタに接続されていない。
  - ➔ USBケーブルをいったんはずして、接続し直してください。
- 本機の空き容量が不足している。
  - ➔ 不要なデータを削除して、空き容量を増やしてください。
- 本機に転送できる曲数は、65,535曲、転送できるプレイリストは8,192です。それを超える曲数またはプレイリストは転送できません。また、1プレイリストにつき999曲を超える曲数は転送できません。
- 再生期間や再生回数などの再生制限のついた曲は、著作権者の意向により本機に転送できない場合があります。それぞれの曲に関する設定内容については、配信者にお問い合わせください。
- SonicStage以外のソフトウェアを使って、CDなどから取り込んだ著作権保護されたWMAファイルは、SonicStageへ取り込んでもフォーマット変換できないため、本機へ転送できません。
- 本機に異常のあるデータが入っている。
  - ➔ 必要なデータをパソコンに戻し、本機を初期化（フォーマット）してください（☞ 75ページ）。

- 付属のソフトウェアを使っていない。
  - ➔ 付属のソフトウェアをインストールし、データを転送してください。
- データが破損している。
  - ➔ 転送できないデータをパソコンから削除し、もう一度そのデータを取り込み直してください。パソコンにデータを取り込むときは、その他の作業を中止してください。データが破損する原因となることがあります。

Q 転送できるデータが少ない（録音できる時間が少ない）

- 本機の空き容量が不足している。
  - ➔ 不要なデータを削除して、空き容量を増やしてください。
- 本機で再生するデータ以外のデータが入っている。
  - ➔ 本機で再生するデータ以外のデータが入っていると、転送できる曲やビデオ、写真、録音できる時間が減ります。本機で再生するデータ以外のデータをパソコンに移動するなどして、本機の空き容量を増やしてください。

Q パソコンに曲を戻せない

- 転送したパソコンと異なるパソコンに曲を戻そうとしている。
  - ➔ 転送したパソコンと異なるパソコンには曲を戻せません。初めに曲を転送したパソコンへ戻してください。パソコンに曲を戻せず本機の曲を削除する場合は、SonicStageで曲を選んで ✕ をクリックして削除してください。
- 転送元のパソコンで曲を削除した。
  - ➔ 転送元のパソコンで曲を削除すると、曲を戻せません。

Q パソコン接続中の動作が安定しない

- USBハブまたはUSB延長ケーブルを使用している。
  - ➔ USBハブまたはUSB延長ケーブルを使用すると、動作が安定しないことがあります。パソコンのUSBコネクタに直接接続してください。

次のページへつづく☞

録音

Q 録音中にノイズが出る

- 本機での録音に対応した別売りのアクセサリーに録音レベル切り換えスイッチがある場合、録音レベル切り換えスイッチが合っていない。
  - → 接続しているオーディオ機器に合った位置にしてください。詳しくは、本機での録音に対応した別売りのアクセサリーの取扱説明書をご覧ください。

Q 曲のはじめの数秒が録音されない

- シンクロ録音を有効にしている場合、ゆっくりフェードインする曲など録音する曲によっては無音検出が働き、正確に曲のはじめを検出できない場合があります。
  - → マニュアル録音にして録音してください（☞ 40ページ）。

Q 曲を消しても録音できる残り時間が増えない

- システム上の制約で、短い曲を何曲か消しても録音できる残り時間が増えないことがあります。

Q 録音できない

- Bluetooth機能を有効にしている状態で録音をしようとした。
  - → Bluetooth機能が有効なときは、録音はできません。Bluetooth機能を解除してください（☞ 53ページ）。
- 本機での録音に対応した別売りのアクセサリーを接続していない。
  - → 本機での録音に対応した別売りのアクセサリーを接続してください（☞ 38ページ）。
- 本機の空き容量が不足している。
  - → 不要な曲を削除してください（☞ 24、43ページ）。
  - → 録音した曲をパソコンに取り込んでください。
- 本機に録音できる総曲数は4,000曲、フォルダ数は255個です。それを超える曲数は録音できません。
  - → 不要な曲を削除してください（☞ 24、43ページ）。
  - → 録音した曲をパソコンに取り込んでください（PDF☞ 103ページ）。
- 1つのフォルダに録音できる曲数は255曲です。
  - → 録音するフォルダを変更してください。
- 録音元のオーディオ機器と正しく接続されていない。
  - → 本機での録音に対応する別売りのアクセサリーを使って正しく接続してください。
- パソコンと接続している。
  - → パソコンの接続をはずしてください。
- 録音中に本機の電池残量が少なくなり、電源が切れた。
  - → 充電して録音してください。

Q 録音した時間と残り時間の合計が、最大録音可能時間に一致しない

- システム上の制約で、短い曲をたくさん録音すると合計時間と合わなくなることがあります。

Q 録音されたけれど音量が小さい

- 録音元のオーディオ機器の出力レベルが低すぎた。
  - → アクセサリーによっては、録音入力レベルの切り換えができるものがあります。詳しくは、本機での録音に対応する別売りのアクセサリーの取扱説明書をご覧になって調整してください。

Q 録音一時停止状態に移行するのに時間がかかる

- 録音した曲が断片化している。
  - → 本機で録音した曲をSonicStageに取り込んでから、本機の「メモリー初期化」メニューで、内蔵フラッシュメモリーを初期化（フォーマット）してください（☞ 75ページ）。

Bluetooth通信

Q ペアリングができない

- 本機と、ペアリングするBluetooth機器の距離が離れている。
  - → 本機とBluetooth機器は1 m以内に近付けてからペアリングを行ってください（☞ 48ページ）。
- ペアリングするBluetooth機器のプロファイルが本機と合わない。
  - → プロファイルが異なる機器とのペアリングはできません。

Q Bluetooth接続ができない

- BLUETOOTHボタンを使って、本機と「クイック接続」に設定していないBluetooth機器を接続しようとしている。
  - → 「クイック接続」に設定してあるBluetooth機器と接続し直してください（☞ 52ページ）。
- 接続するBluetooth機器の電源が入っていない。
  - → 接続するBluetooth機器の電源を入れ、Bluetooth機能が有効になっていることを確認してください。

次のページへつづく☞

- Bluetooth接続が切断されている。
  - → Bluetooth接続をし直してください（☞ 52ページ）。
- 本機または接続するBluetooth機器がスリープ状態になっている。
  - → 本機または接続するBluetooth機器のスリープ状態を解除してください。
- 本機または接続するBluetooth機器が「設定初期化」または「メモリー初期化」されたことなどにより、ペアリングが解除された。
  - → ペアリングをし直してください（☞ 48ページ）。

Q 接続したBluetooth機器から音が聞こえない

- 接続したBluetooth機器が消音（ミューティング）に設定されている。
  - → 接続したBluetooth機器の消音（ミューティング）を解除してください。
- 音量がゼロになっている。
  - → 接続したBluetooth機器の種類によっては音量を調節することはできません。本機または接続したBluetooth機器を使って音量を上げてください。
- 本機および接続したBluetooth機器の電源が入っていない。
  - → 本機および接続したBluetooth機器の電源を入れ、Bluetooth機能が有効になっていることを確認してください。
- 音楽またはビデオが再生されていない。
  - → 音楽またはビデオを再生してください（☞ 22、34ページ）。
- 接続したBluetooth機器の電源が入っていない。
  - → 接続したBluetooth機器の電源を入れ、Bluetooth機能が有効になっていることを確認してください。
- Bluetooth接続が切断されている。
  - → Bluetooth接続を行ってください（☞ 52ページ）。

Q 音量が変わらない

- HOLDスイッチがHOLDの位置になっている。
  - → HOLDスイッチを逆の位置にスライドしてください（☞ 9ページ）。
- 接続したBluetooth機器の種類によっては音量を調節することはできません。本機または接続したBluetooth機器を使って音量を調節してください。

Q 音声がひずむまたは途切れる

- 2.4 GHz帯の周波数を使用する無線、無線LAN、他のBluetooth機器または電子レンジなど、電磁波を発生する機器が本機や接続したBluetooth機器の近くにある。
  - → 本機および接続したBluetooth機器から離れて使ってください。
- 本機および接続したBluetooth機器の間に障害物（金属、人体、壁など）がある。
  - → 本機および接続したBluetooth機器の間から障害物を避ける、または取り除いてください。
- 使用環境に合ったビットレート設定になっていない。
  - → 使用する環境によって適切なビットレートは異なります。接続状態が不安定な場合は「音質モード」の設定値を変更してください（PDF☞ 121ページ）。

Q 音楽再生中に音が途切れやすい

- 2.4 GHz帯の周波数を使用する無線、無線LAN、他のBluetooth機器または電子レンジなど、電磁波を発生する機器が本機や接続したBluetooth機器の近くにある。
  - → 本機および接続したBluetooth機器から離れて使ってください。
- 本機および接続したBluetooth機器の間に障害物（金属、人体、壁など）がある。
  - → 本機および接続したBluetooth機器の間から障害物を避ける、または取り除いてください。
- 送信ビットレートが使っている環境に合っていない。
  - → 接続したBluetooth機器から送信している「音質モード」設定と、ご使用の環境との組み合わせによって、本機の受信状態が不安定になる場合があります。「音質モード」を「接続優先モード」に設定してください（PDF☞ 121ページ）。

Q 雑音が入る

- Bluetooth通信が途切れている。
  - → ご使用の環境によっては、雑音が入ることがあります。場所を移動してから、Bluetooth接続をし直してください（☞ 52ページ）。
- 接続状況によっては、片方のチャンネルだけにノイズが出ることがあります。
  - → Bluetooth接続をいったん切断して、接続し直してください。
- 本機でビデオを再生して音声を接続したBluetooth機器で聞いている時、音がずれる。
  - → 接続したBluetooth機器によっては、音が遅れることがあります。

Q 音が遅れる

- 接続したBluetooth機器によっては、音が遅れることがあります。

次のページへつづく☞

その他

Q 操作時の確認音が鳴らない

- 「操作確認音」の設定が「オフ」になっている。
  → 「操作確認音」の設定を「オン」にしてください（PDF☞ 134ページ）。
- 別売りのクレードルなどに接続している場合、操作確認音は鳴りません。

Q 本体が温かくなる

- 充電中または充電直後に本体が一時的に温かくなることがあります。また、大量のデータを転送した場合も、一時的に温かくなることがあります。しばらく放置してください。

Q 曲が切り換わるときに画面が点灯する

- 「曲切り換わり時表示」が「オン」に設定されている。
  → 「曲切り換わり時表示」を「オフ」に設定してください（PDF☞ 37ページ）。

Q 日付と時刻がリセットされる

- 電池を使いきった状態でしばらく放置すると、日付と時刻がリセットされる場合がありますが、故障ではありません。FULL が表示されるまで充電し、日付と時刻を設定し直してください（☞ 44ページ）。

Q ヘッドホンを抜き差しするとノイズが聞こえる

- ヘッドホンの抜き差しはヘッドホンを耳からはずして行ってください。音楽を再生した状態や、ノイズキャンセリング機能が働いたままでヘッドホンを抜き差しするとヘッドホンからノイズが発生しますが、故障ではありません。

本機のメモリーを初期化（フォーマット）するには

下記の手順に従って必ず本機上で行ってください。初期化すると記録されたデータ（お買い上げ時にあらかじめインストールされているサンプルデータを含む（☞ 85ページ））はすべて消去されますので、初期化する前に内容を確認してください。

1. **一時停止中に、ホームメニューが表示されるまでBACK/HOMEボタンを押したままにする。**
2. **（各種設定）－「共通設定」－「メモリー初期化」－「はい」－「はい」の順に選ぶ。**
   ▲/▼/◀/▶ボタンで項目を選び、▶IIボタンを押して決定します。
   「はい」を選んで決定すると初期化が始まります。初期化が終了すると「メモリーの初期化が完了しました。」と表示されます。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

Bluetooth機器について

機器認定について

本機は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、認証を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。
ただし、以下の事項を行うと法律に罰せられることがあります。
- 本機を分解／改造すること

周波数について

本機は2.4 GHz帯の2.4000 GHzから2.4835 GHzまで使用できますが、他の無線機器も同じ周波数を使っていることがあります。他の無線機器との電波干渉を防止するため、下記事項に注意してご使用ください。

本機の使用上の注意事項

本機の使用周波数は2.4 GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局等(以下「他の無線局」と略す)が運用されています。

1. 本機を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または機器の運用を停止(電波の発射を停止)してください。
3. 不明な点その他お困りのことが起きたときは、ソニーの相談窓口までお問い合わせください。ソニーの相談窓口については、本取扱説明書をご覧ください。

この無線機器は2.4 GHz帯を使用します。変調方式としてFH-SS変調方式を採用し、与干渉距離は10 mです。

Bluetoothとそのロゴマークは、Bluetooth SIG,INC.の商標で、ソニーはライセンスに基づき使用しています。その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。

充電について

- 充電時間は電池の使用状態により異なります。
- 電池を充分に充電しても使える時間が通常の半分くらいになったときは、電池が劣化していると思われます。ソニーサービス窓口へお問い合わせください。

本機の取り扱いについて

- 落としたり、重いものを乗せたり、強いショックを与えたり、圧力をかけないでください。本機の故障の原因となります。

次のページへつづく☞

- 以下のような場所に置かないでください。
  - 直射日光があたる場所や暖房器具の近くなど温度が非常に高いところ
    変色したり、変形したり、故障したりすることがあります。
  - ダッシュボードや、炎天下で窓を閉め切った自動車内(とくに夏季)
  - ホコリの多いところ
  - ぐらついた台の上や傾いたところ
  - 振動の多いところ
  - 風呂場など、湿気の多いところ
  - 磁石、スピーカーボックス、テレビなど、磁気を帯びたものの近く
- ラジオやテレビの音に雑音が入るときは、本機の電源を切って、本機をラジオやテレビから離してください。
- 付属のヘッドホンをご使用中、肌に合わないと感じたときは早めに使用を中止して医師またはソニーの相談窓口(☞ 巻末)に相談してください。
- 本機をお使いになるときは、キャビネットの変形や故障を防ぐために、次のことを必ずお守りください。
  - 本機をズボンなどの後ろのポケットに入れて座らない。
  - 本体にヘッドホンを巻き付けたまま、かばんの中に入れ、外から大きな力を加えない。

- 水がかからないようご注意ください。本機は防水仕様ではありません。特に以下の場合ご注意ください。
  - 洗面所などでポケットに入れての使用
    身体をかがめたときなどに落として水濡れの原因となる場合があります。
  - 雨や雪、湿度の多い場所での使用
  - 汗をかく状況での使用
    濡れた手で触ったり、汗をかいた衣服のポケットに入れると水濡れの原因となる場合があります。
- ヘッドホンを本体からはずすときは、ヘッドホンのプラグを持ってはずしてください。コードを持って引っ張ると断線の原因となる場合があります。
- イヤーピースは長期の使用・保存により劣化する恐れがあります。

ご使用について

- 自動車、オートバイ、自転車などの運転をしながら使用しないでください。特にノイズキャンセリング機能は周囲の音を遮断しますので、警告音なども聞こえにくくなります。運転中以外でも、踏切や駅のホーム、車の通る道、工事現場など、周囲の音が聞こえないと危険な場所では使わないでください。
- スタンドチップ(付属)をつけてご使用になる場合は、スタンドチップ(付属)が引っかかると危険ですので、ご注意ください。また、振り回すと人にぶつかることもあり危険ですので、ご注意ください。
- 飛行機内で使用する際は、離着陸時など、機内のアナウンスに従ってご使用をお控えください。
- 本機を寒い場所から急に暖かいところに持ち込んだときや、冬の朝など暖房を入れたばかりの部屋などで、本機の表面や内部に結露が生じることがあります。結露とは、空気中の水分が金属の板などに付着し、水滴となる現象です。
  結露が生じたときは、結露がなくなるまで電源を入れずに放置してください。そのままご使用になると故障の原因になります。

液晶画面について

- 液晶画面を強く押さないでください。画面にムラが出たり、液晶画面の故障の原因になります。
- 寒い場所でご使用になると、画像が尾を引いて見えることがありますが、異常ではありません。

お手入れ

本体表面の汚れは

- 柔らかい布（市販のめがね拭きなど）で拭いてください。
- 汚れがひどいときは、薄い中性洗剤溶液をしめらせた布で拭いてください。
- シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面の仕上げを傷めますので使わないでください。
- 内部に水が入らないようにご注意ください。

ヘッドホンプラグのお手入れについて

ヘッドホンプラグが汚れていると雑音や音飛びの原因になることがあります。常によい音でお聞きいただくために、ヘッドホンの先端のプラグ部をときどき柔らかい布で乾拭きしてください。

イヤーピースのお手入れについて

ヘッドホンからイヤーピースをはずし、うすめた中性洗剤で手洗いしてください。洗浄後は、水気をよくふいてからご使用ください。

重要なお知らせ

- 権利者の許諾を得ることなく、本機に付属のソフトウェアおよび取扱説明書の内容の全部または一部を複製すること、およびソフトウェアを賃貸することは、著作権法上禁止されております。
- 本機に付属のソフトウェアを使用したことによって生じた金銭上の損害、逸失利益、および第三者からのいかなる請求等につきましても、当社は一切その責任を負いかねます。
- 万一、製造上の原因による不良がありましたらお取り替えいたします。それ以外の責はご容赦ください。
- 本機に付属のソフトウェアは、指定された装置以外には使用できません。
- 本機に付属のソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。
- 本機に付属していないソフトウェアを使用した際の動作は保証しておりません。
- 本機に付属のソフトウェア上で表示できる言語は、パソコンにインストールされているOSによって異なります。お使いのパソコンのOSが、表示したい言語に対応しているかどうかをご確認ください。
  – 言語によっては、このソフトウェア上で正しく表示できない場合があります。
  – ユーザー定義の文字や特殊な記号は表示されない場合があります。

- あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用できません。
- 本製品およびパソコンの不具合により、録音やダウンロードができなかった場合、および音楽、ビデオ、写真データが破損または消去された場合、データの内容の補償については、ご容赦ください。
- 以下の理由により、一部の文字や記号が本機上で正しく表示されない場合があります。
  – パソコンに接続しているポータブルプレーヤーの性能。
  – パソコンに接続しているポータブルプレーヤーが正常に動作していない。
  – コンテンツやファイルの情報が、ポータブルプレーヤーでサポートされていない言語や記号で書かれている。

再生できるファイルの種類

ミュージック		
コーデック	MP3	ビットレート：32 ～ 320 kbps、可変ビットレート（VBR）対応 サンプリング周波数*[1]：32、44.1、48 kHz
	WMA*[2]	ビットレート：32 ～ 192 kbps、可変ビットレート（VBR）対応 サンプリング周波数*[1]：44.1 kHz
	ATRAC	ビットレート：48 ～ 352 kbps（66*[3]、105*[3]、132 kbpsはATRAC3） サンプリング周波数*[1]：44.1 kHz
	ATRAC Advanced Lossless*[4]	ビットレート：64 ～ 352 kbps（132 kbpsはATRAC3 base layer） サンプリング周波数*[1]：44.1 kHz
	リニアPCM	ビットレート：1,411 kbps サンプリング周波数*[1]：44.1 kHz
	AAC*[2]	ビットレート：16 ～ 320 kbps、可変ビットレート（VBR）対応*[5] サンプリング周波数*[1]：8、11.025、12、16、22.05、24、32、44.1、48 kHz
	HE-AAC	ビットレート：32 ～ 128 kbps、可変ビットレート（VBR）対応 サンプリング周波数*[1]：44.1 kHz
曲数	最大65,535曲	

ビデオ			
ファイルフォーマット	MP4ファイルフォーマット、メモリースティックビデオフォーマット		
拡張子	.mp4、.m4v		
コーデック	映像	MPEG-4	プロファイル：Simple Profile ビットレート：最大2,500 kbps
		AVC（H.264/AVC）	プロファイル：Baseline Profile レベル：1.2、1.3 ビットレート：最大768 kbps
		フレームレート：最大30 fps 解像度：最大QVGA（320 × 240）	
	音声	AAC-LC	チャンネル数：最大2 チャンネル サンプリング周波数*[1]：24、32、44.1、48 kHz ビットレート：1チャンネルあたり最大 288 kbps
ファイルサイズ	最大2 GB		
ファイル数	最大1,000ファイル		

フォト *[6]	
ファイルフォーマット	DCF 2.0/Exif 2.21のファイルフォーマットに準拠
拡張子	.jpg
コーデック	JPEG（Baseline） 画素数：最大4,000×4,000ピクセル（1,600万画素）
ファイル数	最大10,000ファイル

*[1] すべてのエンコーダーに対応しているわけではありません。
*[2] 著作権保護されたファイルは再生できません。
*[3] SonicStageでは、ATRAC3 66/105 kbpsのCD録音はできません。
*[4] ATRAC Advanced Losslessのビットレート表記は、ATRAC対応機器・メディアに高速転送可能なコンテンツのビットレートを意味します。
*[5] サンプリング周波数によっては、規格外および保証外の数値も含みます。
*[6] データの種類によっては表示できないものがあります。

次のページへつづく☞

記録できる最大曲数と時間の目安

1曲4分のATRAC形式*[1]およびMP3形式の曲だけを転送・録音した場合で計算しています。他の再生できる音楽ファイル形式では、増減する可能性があります。

*[1] ATRAC Advanced Losslessは除きます。ATRAC Advanced Losslessは楽曲により圧縮率が異なります。例えば、CD1枚（4分の曲が15曲入っていた場合）が約200 MB ～ 500 MBになります。

	NW-A828		NW-A829	
ビットレート	曲数	時間	曲数	時間
48 kbps	5,400曲	約360時間00分	10,950曲	約730時間00分
64 kbps	4,050曲	約270時間00分	8,250曲	約550時間00分
128 kbps	2,050曲	約136時間40分	4,200曲	約280時間00分
256 kbps	1,000曲	約66時間40分	2,100曲	約140時間00分
320 kbps	830曲	約55時間20分	1,650曲	約110時間00分
1,411kbps（リニアPCM）	190曲	約12時間40分	385曲	約25時間40分

記録できるビデオファイルの最大時間の目安

本機にビデオのみを転送した場合で計算しています。使用状況によっては増減する可能性があります。

	NW-A828	NW-A829
ビットレート*[1]	時間	時間
384 kbps	約32時間40分	約67時間00分
768 kbps	約19時間00分	約38時間20分

*[1] 映像のビットレート。音声のビットレートは128 kbps。

記録できる最大写真枚数

最大 10,000枚

ファイルサイズによっては記録できる最大写真枚数が少なくなります。

容量（ユーザー使用可能領域）*[1]

NW-A828: 8 GB

（約7.52 GB = 8,082,391,040バイト）

NW-A829: 16 GB

（約15.2 GB = 16,334,684,160バイト）

*[1] 本機では、メモリーの一部をデータ管理領域として使用しているため、ユーザー使用可能領域は一般的な容量表示とは異なります。

ヘッドホン出力

周波数特性

20 ～ 20,000 Hz（44.1 kHzサンプリング時、単信号測定）

Bluetooth概要

- 通信方式
  Bluetooth標準規格Ver. 2.0
- 出力
  Bluetooth標準規格Power Class 2
- 最大通信距離
  見通し距離約10 m*[1]
- 使用周波数帯域
  2.4 GHz帯（2.4000 GHz ～ 2.4835 GHz）
- 変調方式
  FHSS
- 対応Bluetoothプロファイル*[2]
  A2DP (Advanced Audio Distribution Profile)
  AVRCP (Audio Video Remote Control Profile)
- 対応コーデック*[3]
  SBC*[4]

*[1] 通信距離は目安です。周囲の環境により通信距離が変わる場合があります。

*[2] Bluetoothプロファイルとは、Bluetooth製品の特性ごとに機能を標準化したものです。

*[3] 音声圧縮変換方式のこと。

*[4] Subband Codecの略。

インターフェース

ヘッドホン：ステレオミニ

WM-PORT（マルチ接続端子）：22ピン

Hi-speed USB（USB 2.0 準拠）

動作温度

5 ～ 35 ℃

電源

- 内蔵リチウムイオン充電式電池使用
- USB電源（付属のUSBケーブルを接続して、パソコンから供給）

充電時間

パソコンのUSBコネクタからの充電の場合

約3時間（満充電）、約1.5時間（約80 %まで充電）

次のページへつづく☞

電池持続時間

「曲切り換わり時表示」、「イコライザ」(☞ 26ページ)、「VPT(サラウンド)」(☞ 26ページ)、「DSEE(高音域補完)」(☞ 27ページ)、「クリアステレオ」(☞ 27ページ)、「ダイナミックノーマライザ」(☞ 27ページ)を「オフ」に、「スクリーンセーバー設定」の「種類」を「画面オフ」に設定しているときの目安です。また、ビデオは輝度設定を「3」、Bluetooth通信では「音質モード」を「通常モード」に設定しているときの目安です。

周囲の温度や使用状況、無線LANや他のBluetooth機器などを周囲で使用していたり、本機および接続するBluetooth機器の距離によっては時間が短くなることがあります。

本機の状態	Bluetooth機能およびノイズキャンセリング機能が無効の場合	Bluetooth機能を有効にしている場合	ノイズキャンセリング機能を有効にしている場合
ミュージック			
ATRAC 132 kbps再生時	約31.5時間	約14時間	約25時間
ATRAC 128 kbps再生時	約29時間	約14時間	約23.5時間
ATRAC 48 kbps再生時	約30.5時間	約14時間	約24時間
ATRAC Advanced Lossless 64 kbps再生時	約30時間	約14時間	約24時間
MP3 128 kbps再生時	約36時間	約15時間	約27.5時間
WMA 128 kbps再生時	約35.5時間	約15時間	約27時間
AAC 128 kbps再生時	約33.5時間	約15時間	約26時間
リニアPCM 1,411 kbps再生時	約34.5時間	約15時間	約26.5時間
HE-AAC 48 kbps再生時	約33時間	約15時間	約25.5時間

本機の状態	Bluetooth機能およびノイズキャンセリング機能が無効の場合	Bluetooth機能を有効にしている場合	ノイズキャンセリング機能を有効にしている場合
ビデオ			
MPEG-4 768 kbps再生時	約9時間	約7時間	約8.5時間
MPEG-4 384 kbps再生時	約10時間	約7時間	約9.5時間
AVC Baseline 768 kbps再生時	約8時間	約6時間	約7.5時間
AVC Baseline 384 kbps再生時	約8時間	約6時間	約7.5時間
録音時	約14.5時間	–	–

ディスプレイ

2.4型、TFTカラー液晶、白色LEDバックライト付き、QVGA(240 × 320ドット)、ドットピッチ0.153 mm、262,144色

本体寸法

50.2 × 93.6 × 9.3 mm
(幅/高さ/奥行き、最大突起部含まず)

最大外形寸法

51.0 × 93.9 × 9.3 mm(幅/高さ/奥行き)

質量

約59 g(JEITA)*1

*1 電子情報技術産業協会(JEITA)の測定方法に基づいています。

サンプルデータについて

本機は、音楽、ビデオ、写真の試聴・体験用サンプルデータをあらかじめインストールしています。
一度削除したサンプルデータは元に戻せません。また、新たにサンプルデータの提供はいたしませんのでご了承ください。

商標について

- SonicStageおよびそのロゴはソニー株式会社の登録商標です。
- OpenMG、ATRAC、ATRAC3、ATRAC3plus、ATRAC Advanced Losslessおよびそれぞれのロゴはソニー株式会社の商標です。
- “ウォークマン”、“WALKMAN”、“WALKMAN”ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。
- DSEE Digital Sound Enhancement Engine および CLEAR BASS はソニー株式会社の商標です。
- MicrosoftおよびWindows、Windows Vista、Windows Mediaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標、または商標です。
- Adobe、Adobe ReaderはAdobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
- 本機はドルビーラボラトリーズの米国及び外国特許に基づく許諾製品です。
- 本機はFraunhofer IISおよびThomsonのMPEG Layer-3オーディオコーディング技術と特許に基づく許諾製品です。
- IBMおよびPC/ATは米国International Business Machines Corporationの登録商標です。
- MacintoshはApple Inc.の商標です。
- QuickTimeは米国Apple Inc.の登録商標です。

- PentiumはIntel Corporationの商標または登録商標です。
- 本製品の一部には、Independent JPEG Groupの研究成果を使用しています。
- Bluetoothワードマークとロゴは、Bluetooth SIG, Inc.の所有であり、ソニー株式会社はライセンスに基づきこのマークを使用しています。 他のトレードマークおよびトレード名称については、個々の所有者に帰属するものとします。

Bluetooth®

- その他のシステム名、製品名は、一般的に各開発メーカーの商標あるいは登録商標です。なお、本文中では™、®マークは明記していません。

この製品は“Embedded Memory with Playback and Recording Function System”（以下“EMPR*1”）規格に準拠して製造されています。コンテンツ保護方式として“MagicGate Type-R for Secure Video Recording for EMPR”を利用しています。

*1 “EMPR”は、ソニー株式会社が開発した著作権保護に対応したシステムの規格名であり、“MagicGate Type-R for Secure Video Recording for EMPR”はDpa（社団法人 デジタル放送推進協会）からデジタル放送記録時のコンテンツ保護方式として認可を得ています。

This product is protected by certain intellectual property rights of Microsoft Corporation. Use or distribution of such technology outside of this product is prohibited without a license from Microsoft or an authorized Microsoft subsidiary.

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

「故障かな？と思ったら」(☞ 58ページ)をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

ソニーの相談窓口またはお買い上げ店、添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、デジタルメディアプレーヤーの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を、製造打ち切り後6年間保有しています。この部品保有期間を修理可能な期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店またはソニーの相談窓口にご相談ください。

お問い合わせ窓口のご案内

本機についてご不明な点や、**技術的なご質問、故障と思われるときのご相談**については、下記のお問い合わせ先をご利用ください。

- **ホームページで調べるには⇨ウォークマン カスタマーサポートへ**
  (http://www.sony.co.jp/walkman-support/)
  デジタルメディアプレーヤーに関する最新サポート情報や、その他よくあるお問い合わせとその回答をご案内しています。
  ※本機へ曲を転送できる機器との接続に関する詳細情報につきましても上記ホームページをご確認ください。
- **電話・FAXでのお問い合わせは⇨ ソニーの相談窓口へ(下記電話・FAX番号)**
  お問い合わせの際は、次のことをお知らせください。
  ◆セット本体に関するご質問時：
  - 型名：本体裏面に記載
  - 製造(シリアル)番号：本体裏面に記載
  - ご相談内容：できるだけ詳しく
  - お買い上げ年月日

  ◆付属のソフトウェアに関連するご質問時：
  質問の内容によっては、お客様のシステム環境についてご質問させていただく場合があります。上記内容に加えて、システム環境を事前にわかる範囲でご確認いただき、お知らせください。

よくあるお問い合わせ、解決方法などはホームページをご活用ください。**http://www.sony.co.jp/support**

使い方相談窓口	フリーダイヤル・・・・・・・・・・・・・0120-333-020 携帯電話・PHS・一部のIP電話・0466-31-2511	➡
修理相談窓口	フリーダイヤル・・・・・・・・・・・・・0120-222-330 携帯電話・PHS・一部のIP電話・0466-31-2531	➡

※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

左記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に「301」＋「#」を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

FAX（共通） 0120-333-389
受付時間
月～金：9:00～20:00
土・日・祝日：9:00～17:00

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1